

## 和仏法律学校講義録

著者	掛下 重次郎, 矢部 廉, 松岡 義正, 清水 澄
出版者	和佛法律學校
巻	3-12
ページ	1-69
発行年	1903-04-29
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/5485">http://hdl.handle.net/10114/5485</a>

民國三十六年四月二十九日發行

三十六年度 第三學年ノ十二

# 和佛法律學校講義錄

廣愛智學

和佛法律學校

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

第三學年十二號目次

民法 附 族 (三三)

法律學部 下 重大

民法 手 形 (二二)

法律學部 下 重

民法 債 權 (二二)

法律學部 下 重

行政 法 (二二)

法律學部 下 重

雜 報

○編輯部ノ報告書 ○公設文書ノ整理 ○附屬取附部ノ時表 ○留  
留部ノ文書整理 ○留部中取附部ノ整理 ○附屬

090  
1903  
3-1-12

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ之ヲ準用ス(舊民法人事編第一  
一三條第三項第一二一條第二項)  
養子縁組ノ届出ニ對スル戸籍吏ノ義務ハ婚姻ノ届出ニ關スル規定第七七六條  
ト全ク其趣意ヲ同シクスルモノニシテ戸籍吏ハ養子縁組カ法令ニ違反セサル  
コトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得サルナリ而シテ法令  
トハ第七百四十一條第七百四十四條第七百五十條第八百三十七條乃至第八百  
四十八條又他ノ法令トハ戸籍法及ヒ附屬法令華族令等ヲ謂フナリ  
養子縁組ノ場合ニ於テモ婚姻ノ場合ニ於ケルト同シク戸籍吏ニ於テ養子縁組  
カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スルトキ之カ  
注意ヲ爲シタルニ拘ハラス當事者カ其届出ヲ爲サントスルトキハ戸籍吏ハ敢  
テ之ヲ拒ムコトヲ得シテ受理セサルヘカラス  
外國ニ在ル日本人間ノ縁組第八五〇條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲  
サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコト  
ヲ得此場合ニ於テハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定ヲ準用ス(舊民法人事編

民法學部 親子 養子

11111

第二款 緣組ノ無效及ヒ取消

11111111



縁組ヲ取消スコトヲ得ヘキ場合 (一) 第八百五十三條 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六箇月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス(舊民法人事編第二八條) 第八百三十七條ニ規定スル所ナリ然ルニ此規定ニ背キテ未成年者カ養子ヲ爲シタルトキハ其利益ノ爲メ之カ取消ヲ許ササルヘカラス乃チ其養親自身又ハ其法定代理人ハ裁判所ニ其縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ而シテ此取消權ヲ有スル者ハ右兩者ニ限リ他ノ者例ヘハ養親ノ親ノ如キ者ニ之ヲ與ヘタルハ蓋シ第八百三十七條ノ規定ハ公益ノ爲メノ規定ニ非シ主トシテ養親ノ利益ヲ保護スルニ出テタルモノナレハ固ヨリ當然ナリ而シテ養親カ未成年中縁組ヲ取消ナスシテ成年ニ達シタル後仍ホ之ヲ取消スノ意思ナク却テ其縁組ヲ繼續スルノ意思アルトキハ養親ハ既ニ養子ヲ爲スノ能力ヲ有スルニ至リタル者ナルカ故ニ敢テ其縁組ヲ取消スコトヲ要セス是ヲ以テ法律ハ養親カ成年ニ達シ

タル後六箇月ヲ經過シタルトキ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ養子ヲ爲スノ意思繼續スルモノト認ムヘキカ故ニ復タ其縁組ノ取消ヲ許ササルナリ

(二) 第八百五十四條 第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得舊民法人事編第一二八條)

何人ト雖モ尊屬又ハ年長者ヲ養子ト爲スヲ得サルモトハ第八百三十八條ニ規定スル所又法定ノ推定家督相続人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スヲ得サルコトハ第八百三十九條ニ規定スル所ナリ然ルニ此等ノ規定アルニ拘ハラズ之ニ背キテ養子ヲ爲シタルトキハ其制裁トシテ之カ取消ヲ許ササルヘカラス而シテ此場合ニ於テ法律ハ其取消權ヲ獨リ其養親ニ與フルノミナラス養子其戸主又ハ其親族ニ與ヘタリ而シテ前ノ場合ト異ナル所以以上ノ規定ハ公益ノミヲ保護ニ非シシテ公益ニ關スルヲ以テナリ但此場合ニ於テ法律カ婚姻ニ關スル第七百八十條ノ規定ノ如ク檢事ニ之カ取消權ヲ與ヘタルハ當事者戸主及ヒ親族等ニ於テ違法ノ養子縁組ヲ承認スルニ於テハ敢テ國家力之ニ干渉ス



(四) 第八百五十六條至第八百四十一條の規定に違反したる縁組ハ同意ヲ爲サ  
ラズハ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其配偶者力縁組アリ  
タル時ハ之ヲ知シタル後六箇月ヲ經過シタル所ヨリ追認シタルモノト看做ス(舊  
民法人事編第十二八條) 第八百四十四條至第八百四十六條の規定に違反  
配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非テハ縁組ヲ爲スヲ得サルコトハ第  
八百四十一條ニ規定スル所ナリ然レモ配偶者アル者其配偶者ト一致セズニテ  
縁組ヲ爲シタルトキハ同意ヲ爲サラズハ配偶者ヲ以テ其縁組ヲ取消スコトヲ  
得セシメタルヘカラス而シテ此場合ニ於テ爲シタル縁組ハ同意ヲ爲シタル配  
偶者ト其縁組ノ對手人トノ間ニ於テ之ヲ以テ效力ヲ有スル縁組ニ以テ同意ヲ爲サ  
タル配偶者ニ對シタル固ヨリ有效ナラズ以テ此場合ニ於テ同意ヲ爲サ  
ラズハ配偶者ニ其配偶者ヲ爲シタル縁組ヲ取消セシメタル固ヨリ爲セザル  
同意ヲ爲サズハ配偶者ハ其縁組ヲ明クモ追認シタルトキハ其縁組ハ最初  
ト夫婦一致シタル爲シタルト同様に效力ヲ生ス又縁組アリタルコトヲ知リタリ

ヲ六箇月ヲ經過スルモ依然取消ヲ請求セザルハ其組ニ同意シタル  
モノト看做スカ故ニ後日之ヲ取消スルハ許サレタリ是ハ此處條ニ於  
タル是處ニ二條ノ效力ヲ含有ス第一其配偶者ノ自己ノ同意を得シテ爲シ  
タル組ノ自己ノ爲メニ引受テ行爲ニシテ其組ニ追認因テ其效力ヲ生ス  
第二三條第一項第二ハ配偶者ノ爲メタル組ノ取消權ヲ消滅是  
ナリ  
本條ノ規定ハ主トシテ同意ヲ爲テタル配偶者ノ利益ヲ保護スルニ在リ公益  
ニ關スルモノニ非サレハ組ノ取消權ヲ有スルハ同意ヲ爲テタル配偶者ノ  
同意ヲ得シテ其他ノ者ニ之ヲ有セザルナリ  
(五) 第八百五十七條第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタ  
ル組ノ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スル權利ヲ得  
同意ヲ得ず其強迫ニ因リタルハ亦同シ  
第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
民法法人編第三二條ニ  
成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父

母ノ同意ヲ得ルヲ要スルハ第八百四十四條ニ規定スル所組又ハ婚姻  
因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラシム欲スルトキハ實家  
ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルヲ要スルハ第八百四十五條ニ規定スル所又父母  
共ニ知レザルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコ  
ト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ビ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要スルハ  
第八百四十六條ニ規定セル所ナリ然ルニ同意ヲ要スル者ヨリ同意ヲ得ルハ  
組ノ爲シ又經合同意アリトスルモ其同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタル場合  
ニ於テ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ請求スル權利ヲ得ルハ其  
然ナリ而シテ此規定ハ婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十三條ト其趣意ヲ同シタ  
スルカ故ニ法律ハ組ノ取消ノ場合ニ亦婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十四  
條ノ規定ヲ準用スルコトト爲シタリ即チ同意ヲ爲スル權利ヲ有セシ者カ組  
組アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若シハ強迫ヲ免レタル後六箇  
月ヲ經過シタルトキ(一)同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者若シ承認ヲ爲シタルトキ(二)組  
組届出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキ其取消權ヲ消滅スルコト是ナリ

按ニハ問題アリ第八百四十三條第二項ニ依ルハ繼父母又ハ嫡母ヲ十五年未  
滿ノ者ニ代リ養子ト爲ルヘキ承諾ヲ爲スモハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
然ルニ右ノ規定ニ反シ親族會ノ同意ヲ得シテ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テ戸  
籍吏カ過テ其届出ヲ受ケタルトキハ其縁組ハ有效ナリヤ否ヤ  
増養子縁組ノ場合ニ於ケル其取消ノ請求方法第八五八條ノ所養子縁組ノ場合  
ニ於テハ各當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ  
請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求  
スルコトヲ妨ケス  
前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リ  
タル後六箇月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス(舊民法人事編  
第一三三條)

此規定ハ婚姻ノ取消ニ關スル第七百八十六條ノ規定ト其精神同一ナリ而シテ  
其理由ハ既ニ婚姻ノ取消ニ付テ叙述シタルハ今復タ茲ニ説カサルナリ  
此取消權ヲ有スル者ハ縁組及ヒ婚姻ノ當事者即チ養親増養子及ヒ増養子ノ妻

タル者是ナリ  
唯此場合ノ婚姻ノ取消ノ場合ト異ナルハ其取消權ノ行使ノ期間ナリ婚姻ニ付  
テハ三箇月ナルニ縁組ノ取消ニ付テハ六箇月ト爲シタルハ婚姻ニ付テハ當事者  
カ夫婦タルコトヲ欲セサルトキハ其無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ  
知リタル後三箇月以上モ之ヲ默過スルコト能ハサルハキモ縁組當事者間ノ關  
係ハ婚姻ノ如ク速ニ確定セシムルニ必要アルヲ見タルヲ以テナリ  
縁組ハ取消スルコトヲ得ヘキ第六ノ場合及ヒ縁組ノ取消ノ效力第八五九條ノ第七  
百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條  
第二項ノ期間ハ之ヲ六箇月トス(舊民法人事編第六二條第一三三條第一三二條)  
(イ)婚姻ノ場合第七八五條ト同シテ縁組ノ場合ニ於テモ詐欺又ハ強迫ニ因リ  
テ縁組ヲ爲シタル者ハ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得而シテ其理由ハ婚  
姻ニ關スル第七百八十五條ニ就キ叙述シタルハ今復説セサルナリ唯此場合カ  
婚姻ノ取消ノ場合ト異ナル所ハ婚姻ノ取消權ハ其詐欺又ハ強迫ヲ免  
レタル後三箇月ヲ經過シタルトキハ消滅スルモノト爲セシモ縁組ニ付テハ其

期間ヲ前條ニ於テ叙述シタル理由ニ從ヒ六個月ト爲シタルハ在座ノミ  
 (四) 縁組取消ノ效力ハ縁組取消ノ效力モ婚姻取消ノ效力第七八七條相同シ然  
 既往ニ遡ラサル原則ト爲シ唯縁組ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知マ  
 タリシ當事者カ縁組ニ因リテ財産ヲ得タルキハ現ニ利益ヲ受タル限度ニ於  
 テ其返還ヲ爲スコトヲ要シ惡意ノ當事者ハ縁組ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ  
 返還スルコトヲ要セ尙ホ相手方カ善意ナリトシキハ之ニ對シテ損害賠償ノ責  
 ニ任セザルヘカラス面シテ此理由モ蓋ニ婚姻ノ取消ノ效力ニ付テ叙述セラレ  
 ハ是レ亦越ニ復説セザルナリ(六) 縁組取消ノ原因ハ第八百九十四條第  
 第九百六十四條第二號ニ養子縁組ノ取消ニ因リテ養子カ其家ヲ去リタルトキ  
 ハ家督相続開始スルモノト爲記養子カ一時爲シタル相續有故トシタルカ如  
 キハ縁組取消ノ效力ハ既往ニ遡ラズ然レド定メタル結果外ナラサルナリ

第三款 縁組ノ效力

本款ニ於テム縁組ヨリ養子ト養親及ヒ其親族トノ身分ニ生スル關係ト縁組カ

### 第三款

緣組ノ效力

本款ニ於テム縁組ヨリ養子ト養親及ヒ其親族トノ身分ニ生スル關係ト縁組カ

養親ノ家及及水戸關係ヲ規定スル養子縁組ニ當テハ當ニ顯赫ニ或顯赫  
嫡出子タル身分ヲ取得第八六〇條ニ養子縁組ニ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身  
分ヲ取得ス舊民法人事編第一三四條第一三五條

養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ養親ノ血族ト總テ親族關係ヲ生スルコトハ我邦古來ノ慣習ナルヲ以テ縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スルモバト爲セリ而シテ養子ト猶親及セキ血族之範圍ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スル決トシ法律ヲ親族ノ總則ノ第七二七條ニ於テ既ニ認メタル所ナレバ養子ト養親トノ間ニ於テ縁組ノ日ヨリ實親子ニ等シキ關係ヲ生シ養子ト嫡出子ト爲スル當然ナリ余以テ養親ノ嫡出子ニ等シキ故ニ親權・相續權・姑ニ扶養ノ義務・婚姻ノ障礙第七百六十九條但書ノ例外アリ等ニ關シ實子ト毫モ異ナレドモアラズナレバ然レトモ之ヲ爲メニ養子ハ實家ニ於ケル親族關係ヲ失フニ非ス實家トノ關係ハ依然存スルモノナレバ養子ハ實方ノ親族關係ト養方ノ親族關係ト二様ノ親族關係ヲ有スルナリトスルハ第八六二條ノ養子ノ地位ニ因リテ養親ノ血族ト總テ



養親ト家ヲ同シクスルコト(第八一條) 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル  
(舊民法人事編第一三四條) 縁組ニ因リテ養子ト養親トノ間ニ親子ノ關係ヲ生スルコト(第七百二十七條)  
ニ規定スル所ナレトモ第七百三十三條ニ于テ父ノ家ニ入ル父ノ知レテ養子ハ  
母ノ家ニ入ルコトアリテ養子ハ養親ニ對シテ子タルト同時ニ亦仍ホ其父母ニ對  
シテモ子タルヲ以テ以上ノ規定ニ因リテ養子ハ當然養親ノ家ニ入ルモノト  
解フコトヲ得故ニ本條ヲ以テ之ヲ明カセ我邦從來ノ慣習如ク養子ハ縁  
組ニ因リテ當然養親ノ家ニ入ルモノト爲セリ蓋シ我邦ノ養子ハ主トシテ家ヲ  
繼カシムル爲メニ出テ来ルモノナレバ故ニ養子ハ依然其實家ニ在リテ其目的  
ヲ達スルコト能ハサルヲ以テナカバ我邦ノ慣習ニ因リテ養子ハ其父母ノ家  
ニ入ルモノト爲セリ故ニ本條ニ於テ養子ハ當然養親ノ家ニ入ルモノト爲セリ  
養子ハ其父母ノ家ニ入ルモノト爲セリ故ニ本條ニ於テ養子ハ當然養親ノ家ニ入ルモノト爲セリ

第四款 離縁

離縁ハ夫婦ノ合意ニ基キ婚姻ノ解除ニ付テハ當然ニ離縁ナル語辭  
民法ハ婚姻ノ解除ニ付テハ離縁養子縁組ノ解除ニ付テハ常ニ離縁ナル語辭

ヲ用ヒタレハ離縁ト稱スルコトキ婚姻ノ解除ニ關係ナキコトヲ注意スル爲メ  
カラス 離縁ヲ許スコトハ各國ノ立法例中或ハ之ヲ認ムルモノアリ或ハ然ラズモノアリ  
アリ佛國伊國等佛法系ノ諸國ハ離縁ヲ認メサレトモ獨逸諸州埃國獨逸新民法  
第一七六八條其他獨逸法系ノ諸國ハ當事者一方之請求ニ因リ養子ヲ爲スト同  
一ノ方式ヲ以テ縁組ヲ解除スルコトヲ得ルモノト爲セ我邦ニ於テハ從來養  
子縁組ノ解除ハ婚姻ノ解除ト同シク之ヲ許シタル本法ハ此舊慣ヲ認メ或ハ  
當事者ノ協議ニ因リ或ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ離縁ヲ許スコトヲ爲セ其當事  
者ノ協議ニ出テタルモノヲ協議上ノ離縁ト謂ヒ裁判所ノ宣告ヲ以テスルモノ  
ヲ裁判上ノ離縁ト謂フ而シテ協議上ノ離縁ハ恰モ當事者間ニ協議調ワレキ  
離婚ヲ爲スコトヲ得ルカ如ク養子縁組ニ付テモ亦當事者間ニ協議サヘ調ワレ  
キハ其原因ノ如何ヲ問ハズ離縁ヲ爲セバト得ル之處ニ反シテ裁判上ノ離縁  
ハ猶ホ裁判上ノ離婚ノ如ク法律ハ其場合ヲ限定シ且之ヲ許サザルモノト爲



第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得養子カ十五年未満ナルトキハ其離婚ハ養親ハ養子ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トシ協議ヲ以テ之ヲ爲スコトハ得養親ハ養子カ其協議ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得舊民法人事編第一三七條ニ相當スルモノニシテ縁組ノ當事者ハ既ニ叙述シタルカ如ク其原因ノ如何ニ拘ハラズ協議調フトキハ離婚ヲ爲スコトヲ許ス蓋シ法律カ協議上ノ離婚ヲ許シタルハ養子縁組ハ之ニ因リテ養子ト養親トノ間ニ親族關係ヲ生セシムルモノナリト雖モ此關係タルヤ專ラ當事者ノ協議ニ因リ人爲ヲ以テ成リタルモノナレハ當事者カ之ヲ絶タント欲スルニ於テハ其意思ニ反シテ強ヒテ之ヲ繼續セシムヘキ公益上ノ必要アルヲ見ス若シ之ヲ許ササルコトト爲ストキハ却テ其一家ノ不和ヲ見ルノミナラス我邦ニ於テハ當事者間ニ協議調ヒタル離婚ハ慣習上之ヲ許シタルヲ以テ本法ニ於テ

モ之ヲ許スコトト爲シタルハ十五年未満ノ者カ養子ト爲ラント欲スルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲シ其父母ノ一方カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ意思ヲ以テ之ニ代ヘ父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ親族會及ヒ後見人ノ意思ヲ以テ之ニ代ヘ實家ノ父母カ繼父母又ハ嫡母ナルトキハ其意思ニ加フルニ親族會ノ同意アルヲ要スルコトハ第八百四十三條第八百四十六條ニ規定スル所ナレハ協議上ノ離婚ニ付テモ最初爲シタル縁組ノ場合ト同シク此等ノ者トシ協議ヲ必要ト爲スハ當然ナリ

婚姻ニ付テハ夫婦ノ一方カ死亡シタルトキハ離婚ヲ爲スコトヲ許サザレトモ縁組ハ養親カ死亡シタル後ト雖モ養子カ其解除ヲ爲サント欲スルトキハ之ヲ許スコトト爲セリ是レ蓋シ婚姻ハ夫婦ノ一方カ死亡シタルトキハ既ニ解消セラレタルモノニシテ復タ之ヲ解除スヘキ目的存セザレトモ養子縁組ハ之ニ反

一一三



拂人ヲシテ之ヲ記入セシムルノ意思ナルヲ以テ支拂人ニ其便宜ヲ與ヘシメ  
 マニ手形ノ呈示ヲ必要トス蓋シ支拂地カ支拂人ノ住所ト異ナル場合ニ於テ然  
 支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂人ノ自ラ支拂地ニ於テ支拂ヲ爲ス責任ニ  
 (第四七二條第二項此不便ヲ除ク爲メ)第一ニ振出人カ手形ヲ振出スル當  
 自ラ支拂擔當者ヲ記入スル得然レトモ元來手形ハ支拂人ノ住所ト異ナル場合  
 拂人ノ責任ニ歸スヘキモノナルヲ以テ支拂地カ支拂人ノ住所ト異ナル場合  
 ニ此種ノ手形ニ付キ生ズル手形ノ不便ヲ除ク爲メニ他人ヲシテ支拂擔當者ト  
 定メ支拂ノ任ニ當ルコトヲ許スハ支拂人ノ爲メニ頗ル便利ナリ故ニ第四百七  
 十二條ヲ以テ振出人カ支拂擔當者ヲ記載セザル場合ニ支拂人自ラ之ヲ記載シ  
 得ルノ權能ヲ認メタリ而シテ支拂人カ之ヲ記載シ得ルハ其手形ノ引受ヲ爲ス  
 ニ當リテ之ヲ記入シ得ルヲ以テ支拂人ノ此權能ヲ實行シ得ルカ爲メニ手形  
 呈示ヲ以テ所持人ノ義務ト爲シタルナリ

## 第二節 引受ノ方式

引受ノ方式ハ極メテ單純ニシテ左ノ三ノ條件ヲ要ス

### 第一項 完全ナル引受ノ方式

第一ニ引受ノ旨ヲ記載スルコト  
 即チ引受ノ完全ナル方式トシテハ振出人ノ支拂ノ委託ニ應ジテ手形上ノ義務  
 ヲ負擔スル意思ヲ表示スルカ爲メニ引受ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス  
 第二ニ引受人ノ署名  
 引受モ亦一種ノ手形行爲ナリ隨テ他ノ手形行爲ト同シク引受ヲ爲ス者ノ署名  
 ヲ爲スコトヲ要スルハ當然ナリ  
 第三ニ引受ノ旨ヲ記載シ且署名スヘキ書面ハ爲替手形ニ限ル異トシテ爲替  
 引受ハ書ト異ニシテ其旨ヲ記載シ支拂人ノ署名ヲ爲スヘキ書面ハ引受ト異  
 ナリ手形ハ勿論其原本又ハ補箋ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモ引受爲替手形其  
 ノニ爲スニ非サレハ縱令實際引受ノ意思アリトスルモ手形上ノ效力ヲ生セス  
 而シテ引受ノ日附ハ引受ノ要件ニ非ス

### 第二項 署名ノミヲ以テスル引受ノ方式

支拂人ハ往往手形ニ自己ヲ署名シテ爲ス場合アリ此場合ニ於テ引受爲シタル者ト看做スコトハ第四百六十八條第二項ノ規定スル所ナリ即チ引受方式ハ最モ簡單ナル署名ヲモテ爲シ得ルモノニシテ格モ裏書ニ於テ署名ノミノ裏書ヲ認メタルト同様ナリ蓋シ署名ノミヲ爲シタル場合ニ之ヲ引受ト看做スノ趣意ハ支拂人ハ何等ノ必要ナキニ自ラ好ミテ手形ニ署名シタル事ヲ引受ノ意思ヲ表示シタルモノト解釋スルヲ適當トスルヲ以テナリ何トナレハ若シ引受ヲ拒絕セントスル趣意ナレハ單純ニ手形ヲ返却スレバ足レリ然ルニモ拘ハラズ總テ手形行爲ニ通シテ最モ大ナル要件タル自己ノ署名ヲ爲シタルハ之ヲ以テ何等ノ意思ナキモノト解釋スルヲ得ス是レ即チ之ヲ以テ引受ト看做シタル所以ナリ

### 第三節 引受ノ性質

引受ハ支拂人ヲ爲替手形ノ振出人ノ依頼ニ應ジテ手形上ノ義務ヲ負擔セシメ要式ノ人意思表示ニシテ附随テ手形行爲ナル事ニ在リ其性質ハ爲替手形ノ振出ニ準ジテ其手形ヲ受取人ノ手ニ渡ルニ非ズレバ引受ナラズト見得ル所ナリ故ニ引受ナルモノハ發生スルモノト爲替手形ニ振出タルモノニ必要トス要スルモノ爲替手形力ヲ受ケレバ引受ナレバ引受ノ形式上存在スルモノトモ形式上完全ナル手形アルモノト又實質上引受義務ノ成立スルモノ又實質上ノ手形權利者アルコト又必要トス故ニ手形ノ形式ニ於テ完全ニ振出タルモノ實質上ノ手形權利者ナルモノト置テ引受義務存在スル引受ハ普通ニ振出人ノ依頼ニ應ジテ支拂人カ支拂義務ヲ負擔スルモノナリト定義スルモノ之ヲ以テ直チニ委任ノ承諾ナリト解釋スヘカラス實際ニ於テ民事上ノ契約又ハ委任ノ關係カ裏面ニ存在スルト否トニ拘ハラズ引受ナルモノハ引受人カ一定ノ方式ヲ踐ミテ手形行爲ヲ爲スニ因リテ成立スルモノニシテ其法律上ノ性質ハ契約ニ非ズ引受人ノ片面ノ單獨ノ行爲ナリ又引受ナルモノハ引受ナル手形ヲ呈示スル者ニ對スル所ニ支拂

承諾ニ非ズ苟モ正當ナル手形ヲ所持人ニシテ一定ノ期日ヲ定メ場所所屬於テ手形金額ヲ支拂タヘキ義務ヲ負擔スル所ノ意思表示ニシテ法律上當然ニ其效力ヲ生スルモノナリヨリハ引受人ハ一紙ノ文書ヲ受テモ其行使從テ得ルモノナリ

#### 第四節 引受ノ效力

第一節 引受人ノ義務  
引受人ハ引受ヲ爲シタルトキハ滿期日ニ至リテ其引受タル金額ヲ支拂フ義務ヲ負擔ス(第四七)條此支拂義務ハ手形上ノ嚴格ナル義務ニシテ普通一般ノ義務ト其趣ヲ異ニス一タヒ引受ヲ爲シタルトキハ之ヲ取消スル途ナク又他ニ之ヲ免ルル方法ナシト雖モ唯他所拂手形ニ支拂擔當者ノ記入アル場合ニ所持人カ手形上ノ權利ヲ保全スルニ行爲ヲ怠リタルトキ並ニ滿期日ヨリ三年ヲ経過シタルトキハ其義務ヲ免ルルコトヲ得ル(第四九)條第二項第四三條引受人ノ手形金額ヲ支拂ハ義務ハ引受ノ種類ニ依リ其程度異ナル之ニハ二種アリ其第一ハ手形面記載ノ金額ヲ無條件ニ全部支拂ハベキ引受即チ振出人ノ

委託通リニ支拂フヘキモノニシテ所謂單純ナル引受ナリ此場合ニ於テハ其手形金額全部ヲ支拂フヘキハ勿論ナリ其第二ハ引受ハ手形金額ノ一部ニ付テ引受ヲ爲シタル場合ナリ之ヲ嚴格ニ言ヘハ制限附ノ引受ニシテ純粹ノ引受ト謂フコトヲ得サルモ第四百六十九條第一項ハ特ニ明文ヲ以テ此ノ如キ手形金額一部分ノ引受ヲ爲スコトヲ認メタリ蓋シ一部ノ引受ヲ認メタル理由ハ實際上ノ便宜ヲ重シタルモノニシテ一ハ手形資金ヲ關係ヨリシ又一ハ前者ノ擔保義務ヲ輕減セシメントスルハ趣意ニ外ナラス引受人ハ其引受ノ金額ニ對シテ所謂制限附ノ引受ハ手形金額ノ一部ヲ引受ノ外手形法ハ之ヲ認メス其以外ニ於テ制限ヲ附シテ單純ナラサル引受ヲ爲シタルトキハ全ク引受拒絶ト看做ス(第四六九條第二項)即チ例ヘハ手形ノ滿期日ヲ變更シ或ハ支拂ノ場所ヲ變更シタル引受ノ如キハ手形法ニ所謂引受ニ非ス即チ之ヲ引受拒絶ト看ルノ結果トシテ此ノ如キ場合ニ所持人ハ引受拒絶證書ヲ作成セシメテ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此ノ如キ手形法ニ引受ノ手形金額ノ一部ヲ引受ノ外所謂制限附ノ引受ニ付テハ其效力ヲ認メサルモ手形ノ實際ノ取引ニ至レバ手形ノ所持



人ト支拂人トノ特約ニ依リテ或ハ支拂ノ場所ヲ變更シ或ハ又満期日ヲ延長スルコトアリ然レトモ縱令此等特定人ノ間ニ此ノ如キ特約存在スルトモ振出人以外ノ前者ノ法律上ノ地位ニ變更ヲ察スルニ理由ナシ換言スレバ此等特定人ノ間ニ定メタル事項ニ異ナリタル特約ヲ爲スハ直チニ以テ手形面記載ノ手形上ノ請求ノ拋棄ト看ルコトヲ得ス故ニ縱令所持人カ制限附ノ引受ニ應スルトスルモ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルニ權利ヲ奪ハルコトナシ

所謂制限附ノ引受カ引受ノ拒絕ト看做サルルニ拘ハラズ單絶ナル引受ノ拒絕ト異ナル點ハ其制限附ノ引受ヲ爲シタル引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フコト是ナリ(第四六九條但書蓋シ單純ナル引受拒絕ノ場合ニハ支拂人ハ絕對的ニ支拂義務ヲ拒絕シタルモノナルヲ以テ何等ノ手形上ノ義務ヲ負擔セシメサルモ制限附ノ引受ヲ爲シタル場合ニハ手形面ニ其制限附ノ引受文句アルヲ以テ法律ハ手形當事者全體ノ關係ヨリ言ヘバ引受ノ拒絕ト看做シ居ルモ其引受人ノミハ制限附ノ引受文句ノ趣旨ニ從ヒテ其責任ヲ負擔スルニ旨ヲ規定セリ其結果トシテ若シ本來ノ手形ノ満期日ニ至リテ所持人カ支拂ヲ請求レ

テ拒絕サレタルニ拘ハラズ支拂拒絕證書ヲ作成セシメス前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ全然喪失スルトスルモ制限附ノ引受ヲ爲シタル引受人ハ其文句ノ趣旨ニ從ヒテ支拂義務ヲ負擔スルニ拘ハラズ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササル場合ニハ所持人又ハ不支拂ノ爲メニ償還ヲ爲シタル者ニ對シ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ニ規定アル金額ヲ支拂ハサルヘカラス

第二 引受人ノ權利

引受人ノ權利ハ第一、不確定ノ他所拂ノ手形ニ於テ支拂擔當者ヲ指定スル權利(第四七二條第二)支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スル權利(第四七三條)是ナリ振出人モ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得ルハ既ニ手形ノ振出ノ所ニ於テ説明セシ所ナリ振出人ニシテ此權利ヲ有スル以上ハ支拂ノ主タル債務者タル引受人ニ此權利ヲ與フル必要アルハ論ヲ俟タス

以上第一、第二ノ權利ハ引受其モノノ當然ノ效力ニ非サルモ引受人ニ伴フ所ノ權利ナリ引受ヲ爲ササル支拂人ハ此ノ如キ權利ヲ有セス此權利ヲ行使スルニ



ハ其時期ニ制限アリテ何レモ支拂人カ引受ヲ爲ス當時ニ之ヲ行使セサルヘカ  
ラス既ニ引受ヲ爲シタル後手形カ所持人ノ手ニ返リタルトキハ再ヒ之ヲ記入  
スル權利ナシ

## 第四章 支拂

### 第一節 支拂ノ爲メニスル呈示

支拂ノ爲メニスル呈示ハ引受ノ爲メニスル呈示ト異ナリ手形ノ所持人ハ支拂  
ヲ求ムル爲メニハ必ス爲替手形ヲ支拂人又ハ引受人ニ呈示セサルヘカラス前  
ニ述ヘタルカ如ク引受ヲ求ムル爲メニスル呈示ハ所持人ノ自由ナリト雖モ元  
來手形ノ支拂ハ手形其モノト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セサル原則  
トスルノミナラス其他前者ニ對シ償還ヲ請求スルノ條件ト爲リ又ハ引受人  
運滞ノ責ニ任セシムルノ條件トシテ支拂ノ爲メニスル呈示ハ必ス之ヲ實行セ  
サルヘカラス面シテ此呈示ハ爲替手形ノ引受アリタルト否トニ拘ハラズ之ヲ  
爲ササルヘカラス蓋シ先ニ引受ナカリシトスルモ支拂人カ満期日ヲ待テ手形

ノ資金ヲ得タル場合ニ於テハ實際支拂ヲ爲スニ差支ナケレハナリ此支拂ノ呈  
示ニ付テ手形法カ特ニ嚴格ナル規定ヲ設ケタルハ第四百八十二條ナリ即チ一  
覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求  
メサルヘカラス若シ振出人カ之ヨリ短キ期間ヲ指定シタル場合ハ其指定ノ期  
間內ニ支拂ヲ求ムル爲メニ之ヲ呈示セサルヘカラス若シ所持人カ拒絕證書ヲ  
以テ此期間ノ如ク呈示シタルコトヲ證明セサル場合ニハ前者ニ對スル手形上  
ノ權利ヲ失フ蓋シ此ノ如キ制裁ヲ設ケタル所以ハ一覽拂ノ手形ハ一覽ノ日即  
チ手形ノ満期日ナルヲ以テ若シ此ノ如キ制限ナカリセハ一覽ノ日即チ手形ノ  
満期日ハ不確定ノモノト爲リ非常ノ長期間ニ亘ルノ虞アレハナリ  
支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示ハ一ニハ償還請求權行使ノ條件ト爲リ又一ニハ  
引受人ヲシテ運滞ノ責ニ任セシムルノ條件ト爲ル第四百八十七條ニ依レハ所  
持人カ償還請求ヲ爲サントスルトキハ支拂ヲ求ムル爲メニ爲替手形ヲ支拂人  
ニ呈示シ其他同條ニ定メタル所ノ手續ヲ履行スルノ必要アリ故ニ若シ此手續  
ヲ爲スコトヲ怠ルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ是ニ由リテ之ヲ

觀レハ支拂ノ爲メニ呈示ハ償還請求權行使ノ一ノ必要條件ナリ又次ニ支拂ノ爲メニ呈示ハ引受人ヲシテ遲滞ノ責ニ任セシムルノ條件ナリ元來民法ノ規定ニ依レハ民法第四一二條參照債權ノ期限ヲ附シタルトキハ債務者ハ其期限ノ到來ニ因リテ遲滞ノ責ニ任スルヲ原則トスト雖モ手形ニ在リテハ然ラス單ニ滿期日ノ到來ヲ以テ直チニ引受人ヲシテ遲滞ノ責ニ任セシムルモノニ非ス支拂ノ爲メニ呈示ニ因リテ始メテ引受人ニ遲滞ノ責ヲ負ハシムルモノナリ蓋シ手形ハ多數ノ當事者間ニ流通シ債權者ハ常ニ變動スルヲ以テ債務者ヨリ進ミテ支拂ヲ爲スコトハ到底不能ニ屬スレハナリ故ニ手形ヲ呈示ヲ待チテ始メテ支拂ヲ爲スヘキモノニシテ呈示アルヲハ縱令引受人ト雖モ遲滞ノ責ニ任セシメタルハ當然ナリ

商法第二百七十九條ニ依レハ一般ノ指圖債權及ヒ無記名債權ノ債務者ノ遲滞ノ責任ニ付テハ縱令其證書ニ期限ノ定アリト雖モ其期限到來後ニ所持人カ其證券ヲ提出シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任スヘキモノトセリ手形モ亦通常指圖債權ナルカ又ハ無記名債權ナルヲ以テ第二百七十九條ヲ基

礎トシテ論スルトキハ勿論同條中ニ包含セラレズモノナリト雖モ第二百七十九條ハ記名債權ノ債務者ニ付テハ何等ノ規定ナキモノト謂ハサルヘカラス故ニ同條ノミニ付テ立論スルトキハ振出人ノ裏書禁止ノ手形ニ付テハ引受人ハ滿期日ノ到來ニ因リ直チニ遲滞ノ責ニ任スヘキカ如シト雖モ手形法ニ關スル他ノ規定ヨリ推究スルトキハ直チニ此ノ如ク論決スルコトヲ得ス蓋シ振出人カ裏書ヲ禁止シタル手形ニ於テモ其債權債務ノ關係ハ他ノ一般ノ手形ト毫モ異ナル所ナク例ヘハ裏書禁止ノ手形ニ於テモ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ之ヲ呈示シ又支拂ヲ求ムル爲メニ之ヲ呈示セサルヘカラスシテ其他ノ手形關係ニ付キ手形法ノ上ニ於テ特ニ其取扱ヲ除外シタル點毫モ發見スルコトヲ得サレハナリ換言セハ此種ノ手形モ學者ノ所謂呈示證券タル性質ヲ失フモノニ非ス又第四百八十三條ニ於テハ爲替手形ノ支拂ハ其手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セサル權利ヲ支拂ヲ爲ス者ニ與ヘタルヲ以テ觀レハ引受人カ此種ノ手形ニ付テノミ滿期日ノ到來ト共ニ遲滞ノ責ニ任スルハ聊カ矛盾ノ嫌アルヲ免レサルノ結果ヲ生ス之ヲ要スルニ以上説明シタル諸點ヨリ研究スレ

ハ振出人ノ裏害禁止ノ手形ニ付テモ引受人ハ支拂ノ爲メニスル呈示ヲ待テテ始メテ遲滞ノ責ニ任スヘキモノト解スルヲ妥當ナリトス

## 第二節 支拂ノ時期

支拂ノ時期ハ所謂手形ニ記載シタル満期日ナリ手形ハ所持人ハ其期日前ニ於  
テハ勿論支拂ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ此期日ニ至リ支拂ヲ得タルトキ  
ハ拒絕證書ヲ作成セシメテ前者ニ對シ償還請求權ヲ行使スルコトヲ得此ノ如  
ク満期日ハ支拂人又ハ引受人ヨリ觀ルトキハ支拂ヲ爲セキ確定日ナリト雖  
モ手形所持人ノ權利ノ方面ヨリ觀ルトキハ所持人ハ必スシモ其日ニ支拂ヲ請  
求セサルヘカサルモノニ非ス新商法ニ於テハ拒絕證書作成期間内即チ満期  
日又ハ其後ノ二日以内ハ有效ニ支拂ヲ請求スルコトヲ得又經合満期日カ祭日  
ニ當ルモ爲メニ満期日ノ變更ヲ來サス故ニ支拂人ハ満期日ハ祭日ナルヲ理由  
トシテ支拂ヲ拒絕スルコトヲ得

茲ニ支拂期日ノ延期ニ付一言セシニ手形ヲ支拂人ト所持人トノ特約ヲ以テ

手形面作滿期日、其債權在支拂ノ支拂期日ヲ経過スルモノハ差引續行ト此大  
如シ特約ニ經合之ヲ要シ、罷職ハ手形上ノ效力ヲ生セシ唯單斷其特約ヲ  
取戻スル當事者間ノ對諾ヲ受テ其效力ヲ生スルニ過キ放諸此等知特約又  
爲新支拂所持人ハ其約定所期日ヲ到來スル前春メテ手形金額ヲ支拂並請  
求スルニ過キ得ズ又支拂人其特約ヲ以テ其者ニ對シ支拂拒ムコトヲ得然  
レトモ此等知特約ヲ以テ他ノ手形償還者又一特約者ニ後着テ手形上ノ地位  
ニ變換シ生スル償還力故テ支拂人其對其關係面ヲ觀テ斯等特約ヲ爲願  
スル者ヨリ手形面匯受スル所持人ハ手形面記載ノ滿期日滿於テ支拂並請求  
可得ニ或支拂人其前主特約理由ニ基テ支拂ヲ拒ム一著ヲ得又前者ニ對ス  
ル關係面ヲ觀テトキ其特約ヲ爲新支拂所持人則雖僅還請求權ヲ行使セン  
スルニ過キ手形面滿期日ヲ以テ基本額爲支拂金而新支拂前着所持人亦  
特約ヲ爲新支拂人故チ滿期日ニ支拂并無テ由テ還由新支拂償還義務ヲ罷  
ナルコトヲ得不要スルニ支拂延期ノ特約ハ其特約者間ノミニ止マリ他ノ手形  
當事者ニ何等ノ效力ヲ及ボウス換言セバ手形上ノ效力ヲ生セス



開法手形 偽變手形 偽變手形ノ成立及其原因論ニ行聯 支拂 支拂ノ方法

第五節 支拂ノ方法

支拂ノ方法ハ全部ノ支拂アル場合ト一部ノ支拂アル場合トニ依リ異アル全部支拂ノ場合ハ手形ノ支拂ハ手形ト引換ニ非アレハ之ヲ爲スコトヲ必要トヤス(第四八三條第一項然レトモ是レ單ニ支拂ヲ爲ス者ノ權利ナシヲ義務ノ非アルヲ以テ若シ支拂人カ引換ナシニ支拂ヲ爲シタルトキハ再支拂ノ危險ヲ負擔セサルヘカラス向キ支拂ニ付テハ支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ手形ニ支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ヲ署名セシムル權利ヲ有ス(第四八三條第二項是レ

支拂ヲ爲シタルカ爲メニ自己ハ手形ヲ所持シタルコト並ニ何人ヨリ其手形ヲ取得シタルヤヲ詳ニスルハ必要アルヲ以テナリ  
一部支拂ノ場合ニハ所持人ハ一部ノ支拂アリタル旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其原本ヲ作成シ署名ノ後ニ支拂ヲ爲ス者ニ交付スルヲ要ス故ニ一部支拂ノ場合ニ於テ支拂ヲ爲シタル者ノ手中ニ存スルモノハ其旨ヲ記載シタル原本ニ止マレモノニシテ爲替手形ハ依然所持人ノ手中ニ存在ス蓋シ所持人ハ殘部ニ付テ前者ニ對シ償還請求ヲ爲スノ必要アリ而シテ償還ヲ請求スルニ付テハ爲替手形ヲ送付シテ之ヲ引換ヘタルヘカラス此目ヲ達スル爲メハ所持人ニ於テハ尙ホ本手形ヲ必要トスレハナリ又一方ニ於テ一部支拂ノ證明ハ其旨ヲ記載シタル原本ヲ以テ足ルカ故ナリ第四八四條第二項  
手形金額ノ供託 手形金額ノ支拂ハ満期日ニ始マリ支拂拒絕證書作成期間内ハ所持人ニ於テ償還請求權ヲ失フコトナクシテ有效ニ支拂ヲ請求スルコトヲ得ト雖モ此期間ヲ經過スルモ尙ホ所持人カ支拂ヲ請求セザルトモ引受人ハ拒絕證書作成期間ヲ經過シタル後ニ手形金額ヲ供託シテ支拂義務ヲ免ルルコト

此方法能拒絶證書作成期間經過後引受人之危險負擔

第二部 爲替手形ノ複雑ナル法律關係

第一章 手形、保證

## 第二節 保證之方式

保證ノ方式ハ恰モ裏書ト同様ニシテ爲替手形其モノ又ハ其謄本又ハ補箋ノ保證ノ爲メニ署名スルニ在リ保證者亦手形爲ナリト以テ一定ノ書面ニ署名スル要スルコトハ當然ナリ其第四九七條ニ據テハ銀行ノ爲メニ保書ト云フ爲替手形ノ保證ハ其形式ヨリ謂フトキハ從タル債務ナリ故ニ保證ノ成立スルニハ必ズ主タル債務者ノ署名アルコトヲ要ス若シ手形ニ主タル債務者ノ署名ナキトキハ保證ノ成立セズ若シ此ノ如キ場合ニ保證人ノ署名ニ添ヘテ特定ノ主タル債務者ノ爲メニ保證スルコトヲ記載スルモ保證ハ主タル債務者ノ署名ヲ爲メニ爲メニ其目的ヲ達スル所ナリ得ズ若シ其主タル債務者タルベキ者若シ振

南樓子

爲警手形 爲警手形ノ瘦體ナル法律關係 手形ノ保證 保證ノ方式

保證ノ方式

1111

出人タレハキ者ナリトモ一經合保證人ノ署名ヲモ手形ハ振出人ナキ者爲満  
ニ根本無効ナリトモ何ハレハ保證人爲メ署名ナレトモ手形上ニ  
餘ナル以上ハ保證人ヲ以テ振出人ト謂フニキ得タルハガモモ  
第二節 保證ノ效力

前節ニ於テハ手形ハ保證ヲ成立セキ形式上ノ要件ヲ述ヘタリ即チ此要件ヲ  
具備スルトキハ保證モ亦實質上成立ス蓋シ第四百九十七條ノ規定ニ依リテ此  
要件ヲ具備スル以上ハ主タル債務カ無効ナレトモ主タル債務者ト同一  
ノ責任ヲ負フヘキ旨ヲ規定スレハナリ此點ハ普通ノ保證ト著シク異ナル點ニ  
シテ即チ普通ノ保證ニ於テハ其成立要件トシテ主タル債務カ實質上存在スル  
コトヲ要シ若シ主タル債務カ無効ナルトキハ保證モ亦無効ト爲リ主タル債務  
カ取消シ得ヘキトキハ保證モ亦取消シ得ヘキモノナリト雖モ之ニ反シテ手形  
債務ハ保證ハ主タル債務カ無効ナルトモ主タル債務人ハ其責ヲ免ルルモノニ  
非ス要スル所ニテ手形保證ノ成立形式上主タル債務者ハ署名ヲ要スル所ニ

主タル債務ハ實質上存在スルコトヲ要スル所ニテ此點ニテ手形ノ  
保證ハ實質上獨立ノ債務ナリトモ主タル債務者ハ責任ノ程度ト同一ナリ故ニ振出人ハ其  
保證人ハ責任ノ程度ハ主タル債務者ノ責任ノ程度ト同一ナリ故ニ振出人ハ其  
メニシタル保證人ハ振出人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フ引受人ノ爲メ  
ニスル保證人ハ手形當事者全員ニ對シテ支拂義務ヲ負擔ス中間ノ裏書人ノ爲  
メニスル保證人ハ其裏書人ノ後者全員ニ對シテ手形債務ヲ負擔ス又一部引受  
人ノ保證人ハ其一部分ニ付キ支拂義務ヲ負擔ス此點ニテ保證人ハ其一部分  
保證ヲ爲スニ當リテ保證ノ爲メ署名ナレトモ明カナルモ何人ノ爲メニ保證  
ヲ爲シタルカ不明ナル場合ニ於テハ引受アリタルトモ引受ノ爲  
メニスル保證ト看做シ未ダ引受アリタルトモ振出人ノ爲メニ保證シタル  
モノト看做ス(第四九八條)

### 第三節 手形保證ノ週及權

手形保證人ハ其債務ヲ履行シタルハ手形所持人カ主タル債務者ニ對シテ



有セシ權利並ニ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス(第四九  
九條例ハハ裏書人ノ爲メニ保證シタルニ支拂ナカリシ爲メニ保證人カ償還請  
求ニ應ジタルトキハ其裏書人ニ對シテ償還請求ヲ爲シ得ヘク若シ之ヲ拒絕サ  
ルルトキハ更ニ其前者ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得要スルニ保證人カ其  
義務ヲ履行シタルトキハ過及權ヲ取得スト雖モ所持人又ハ主タル債務者ノ權  
利ヲ承繼スルニ過キヌ獨立固有ノ過及權有スルモノニ非ヌ隨テ主タル債務  
者ハ所持人ニ對シテ有セシ抗辯ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ヘク又主タル  
債務者ノ前者ハ主タル債務者ニ對シテ有スル抗辯ヲ以テ保證人ニ對抗スル  
コトヲ得ルモノトス得ルニ箇以上ノ手形ヲ關ス故ニ復本ヲ作成セタル場合ニ  
爲替手形ノ使用上安全ヲ圖ルカ爲メ又一ニハ流通ノ便利ヲ圖ルカ爲メニ手形  
中特ニ爲替手形ニ付テ復本及ヒ贖本ノ制度ヲ設ケタリ爲替手形ノ復本トハ互  
ニ代用スルコトヲ得ルニ箇以上ノ手形ヲ關ス故ニ復本ヲ作成セタル場合ニ

## 第二章 爲替手形ノ復本及ヒ贖本

各爲替手形ハ全然同一ノ内容ヲ有セタルヘカラス即チ例ヘハ手形金額満期日  
其他手形當事者カ何レモ同一ナルコトヲ要ス此等ノ多數ノ手形ハ形ノ上ヨリ  
言ヘハ多様ナリト雖モ其權利關係上全部合セテ一ノ手形ノ效用ヲ爲スモノト  
ス先ツ復本ニ付テ安全ノ爲メニスルモノハ例ヘハ極メテ遠隔ナル地ニ爲替手  
形ヲ送付シテ引受又ハ支拂ヲ求メントスル場合ニ二箇以上ノ同一體様ノ手形  
ヲ作成シ時ヲ異ニシ又ハ線路ヲ異ニシテ各一通過ヲ目的地ニ送付セハ其中何  
レノ一通カ到達スルコトアラハ即チ其一通ヲ以テ支拂又ハ引受ヲ求ムルコト  
ヲ得此場合ニハ他ノ各通ハ效力ヲ失フ又流通ノ便利ノ爲メニスルモノハ例ヘ  
ハ遠隔ノ地ニ向テ引受ヲ求ムル爲メニ手形ヲ送付シ一方ニ於テハ復本ノ一ツ  
以テ裏書ノ用ニ供シ引受ノ爲メニ送付シタル手形ノ返還ヲ待タズシテ直チニ  
手形上ノ權利ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得

爲替手形ノ流通ノ便利ヲ圖ルニハ復本ノ外ニ又贖本ヲ以テ其目的ヲ達スルコ  
トヲ得贖本ハ單ニ原本ノ謄寫ニシテ所持人カ自由ニ之ヲ作成スルコトヲ得若  
シ手形ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メニ原本ヲ引受人ニ送付シ一方ニ於テハ同

時ニ手形上ノ權利ヲ讓渡セントスルトキハ即チ自ラ原本ヲ作成セテ其原本ニ依リテ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

### 第一節 爲替手形ノ復本

#### 第一款 復本ノ作成

復本ノ作成ハ第五百十八條ヲ以テ之ヲ規定セテ爲替手形ノ復本ハ其原本ト異ナリ必ス振出人自ラ之ヲ作成スヘキモノナリ其作成ハ所持人ノ請求ニ依リテ爲スモノニシテ而モ所持人カ之ヲ請求スルニハ直接ニ振出人ニ對シテ復本ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス必ス順次ニ前者ヲ經由シテ遂ニ振出人ニ對シテ之ヲ請求ス次ニ振出人カ其請求ヲ受ケタルトキハ其請求スル數ヲ從ヒテ復本ヲ作成シ之ヲ所持人ニ交付スル義務ヲ負フ振出人ハ此ノ如ク復本ヲ作成シタルトキハ其手形ノ復本タルコトヲ明瞭ニ示スコトヲ要ス即チ普通ニ第一號第二號第三號ト云フ如ク表示ヲ爲ス然レトモ復本タルコトヲ表示スル方法ヲ付テハ我手形法ニハ何等ノ制限ナキヲ以テ如何ナル方法ヲ以テスルモ復本タルコトヲ

明瞭ナル以上ハ復本タル效力ヲ生スルヲ妨ケス若シ振出人カ明瞭モ復本タルコトヲ表示セタルトキハ各復本ハ各獨立ノ爲替手形タル效力ヲ生ス(第五一九條何トナレハ此ノ如ク表示ナキ場合ニハ手形取引ヲ爲ス者ハ一箇ノ手形ノ爲替ニ多數ノ手形ヲ作成セラレタルコトヲ知ルニ由ナク手形面記載ノ文言ニ從ヒテ各獨立ノ爲替手形ト看做スハ當然ナルヲ以テナリ最後ニ振出人カ復本ヲ發行セタルトキハ各裏書人ハ順次ニ之ニ裏書ヲ爲シテ復本ノ請求者タル所持人ニ之ヲ交付スルコトヲ要ス

#### 第二款 復本ノ請求權

復本ノ交付ヲ請求スル權利ハ法律カ無制限ニ各手形所持人ニ付與シタル權利ナルヲ以テ爲替手形ノ振出人ハ復本ノ交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ其希望ナル數ノ復本ヲ交付スルノ義務ヲ負フ其交付ノ義務ハ振出當時ニ受取人トノ間ニ復本交付ノ契約ノ存在ノ有無ニ拘ハラズ換言スレバ復本ノ交付ハ契約上ノ義務ニ非スシテ法律上當然負擔スヘキ義務ナリ故ニ最初受取人ハ普通ノ手

形又ハ或定マリタル數ノ手形ヲ以テ満足シタル場合ト雖モ其後ノ所持人ハ其レ以上ノ複本ヲ請求スルコトヲ妨ケス何トナレハ手形法ニ複本ノ數ニ付テハ何等ノ制限ナキヲ以テナリ

此複本ノ制度ハ爲替手形ニ限ルモノニシテ他ノ二ツノ手形ニハ存在セス其理由ハ先ツ小切手ニ付テ觀レハ小切手ハ元來支拂ノ便法トシテ設ケラレタルモノニシテ爲替手形ノ如ク流通ノ爲メニ設ケラレタルモノニ非ス隨テ新商法ニ於テハ其支拂期限モ其振出ノ日ヨリ一週間内ニ限レリ此等ノ性質ヨリシテ小切手ニハ上來述ヘタル如ク複本ヲ設クル必要ナシ又約束手形ニ付テ之ヲ觀レハ此手形ニ在リテハ振出ノ當初ヨリシテ爲替手形ノ引受人ニ相當スヘキ振出人カ支拂ノ主タル債務者トシテ存在ス隨テ爲替手形ニ於ケルカ如ク改メテ引受ヲ求ムルノ必要ナシ此點ニ於テ複本ノ必要ヲ認メス

### 第三款 複本相互ノ關係

各複本ハ何レモ皆原手形ト同一ノ效力ヲ有ス普通ニハ第一ニ振出シタル手形

ヲ原手形ト謂フモ是レ唯名稱ニ過キスシテ其他ノ各複本ハ效力ニ於テ原手形ト異ナルコトナキ故ニ複本ヲ作成シタル場合ニハ單一ニシテ同一ナル手形義務ノ多數ノ根本的ノ證書カ成立シタルモノト謂フコトヲ得此等ノ多數ノ證書ハ全ク同一ノ手形行爲ノ生産物ナリ即チ同一ノ金額同一ノ満期日其他總テノ手形ノ内容ニ於テ同一ナラサルヘカラス是レ即チ複本カ複本トシテ手形ノ使用上重大ナル效用ノ存スル所ニシテ手形ノ取得者ハ其複本ノ何レノ一通ニテモ受取ルニ躊躇セス隨テ一ヲ以テハ引受ヲ求メ一ヲ以テハ手形上ノ權利ヲ裏書スルコトヲ得而シテ支拂ヲ請求スルニ付テハ複本ノ所持人ハ他ノ總テノ複本ヲ呈示スルコトヲ要セス又他ノ複本カ何人ノ手ニ在ルヤヲ説明スルコトヲ要セスシテ唯一通ノ複本ヲ以テ支拂ヲ請求スルコトヲ得又支拂人モ複本ノ番號ノ順次ヲ検査スルコトヲ要セス先ツ自己ノ手ニ入リタル複本ヲ支拂フトキハ之ト同時ニ他ノ複本ハ悉ク消滅ス此點ハ即チ複本ノ消滅ニ關スル一大原則ナリ何トナレハ元來手形ノ書面トシテハ形式上數多ノ手形アルモ實質上手形義務ハ同一ニシテ且單一ノモノナリ此同一ニシテ而モ單一ナル義務ヲ表面ニ

現ニ爲メニ便宜上ニ通以上ノ手形ヲ作成シタルニ過キサルヲ以テ一通ノ復本ヲ支拂ヒテ實質上一ナル所ノ義務ヲ履行セシム他ノ復本ノ各通カ效力ヲ失フハ當然ナリ然レトモ若シ復本ニ引受ヲ爲シタル者アリシトキハ縱令他ノ引受ナキ復本ヲ支拂フトモ之カ爲メニ引受アル復本マテ消滅セシムルコトヲ得ヌ蓋シ引受ヲ爲シタル以上ハ引受人ハ之ニ依リテ手形上ノ義務ヲ負擔スルヲ以テ他ノ復本ヲ支拂ヒタルカ爲メ直チニ引受ノ義務ヲ消滅セシムルコトヲ得ヌ故ニ復本ノ一ニ引受アル場合ニハ手形ノ支拂人ハ先ツ引受アル復本ヲ支拂フヲ以テ安全トス(第五二〇條第一項但書)復本ハ互ニ代用スルコトヲ得ルモ手形カ證書債權ナル結果ヨリシテ形式上其記載ノ事項ハ各箇ノ復本ニ付テ決定セラルヘカラス故ニ復本ノ流通ノ中途ニ於テ彼此復本ノ間ニ記載事項ヨリシテ多少効力ニ差異ヲ生スル場合アリ何レナレハ復本ハ其形ヨリ言ヘハ其各復本ヲ集メテ始メテ完全ナル一ノ手形ヲ形成スヘキモノニ非ズ然レモ一枚ノ復本カ固有ニ手形タル効力アルモノナラバ以テ其復本ニ依リテ手形上ノ權利ヲ主張スルコトスル者ハ必ス其特定ノ復本ノ記載事項ニ依リテ主張セザルヘカラス例

ハ第一ノ手形ニ引受アリタリト引受ノ記載ナキ第二ノ手形ヲ以テ引受人ニ對シテ權利ヲ主張スルコトヲ得ヌ又第二ノ手形ニ裏書アリト其裏書ナキ第一ノ手形ヲ以テ裏書人ニ對シテ手形上ノ權利ヲ請求スルコトヲ得ヌ之ヲ要スルニ復本ノ記載事項ハ互ニ相補充スルコトヲ得ヌ(第五二一條)然レモ復本以上述ヘタル手形ノ復本ハ手形ノ權利關係ヨリ言ヘハ其數ハ多少ニ拘ハラヌシテ全部合シテ一箇ノ手形ノ如ク看做サレ隨テ唯一ノ手形義務ヲ示スモノト外ナラストノ原則ハ其復本カ順調ニ於テ同一ノ當事者間ニ流通スル場合ヲ謂フ若シ復本流通ノ際ニ不正ノ手段ニ依ルカ又ハ錯誤ニ基キテ各別ノ人ニ復本カ流通スルコトト爲ルトキハ此原則ニ對シ例外ヲ生ス第五百二十條第二項ニ二人以上ニ各別ニ數通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ數通ノ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ返還セサル各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サルコトヲ規定セリ故ニ復本カ所謂獨立別箇ノ手形トシテ効力ヲ生スル場合ハ一ハ裏書人カ各別ノ人ニ裏書ヲ爲スカ一ハ引受人カ數通ノ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル場合ニシテ何レモ手形ノ返還ヲ得サリシ場合ニ限ル面

此等之裏書又ハ引受書故意ニ出タル下續紙ニ出タルトヲ謂フニ其手續  
既ノ如キ場合ハ原本ハ獨立以爲替手形シテ效力ヲ有シ去テ原本ニ其手形  
ヲ所持人ト此等ノ多様之裏書若シテ引受書爲シテ持人トシテ原本ニ其  
手形以テ前ノ者ハ之カ爲メニ二重ノ義務ヲ負擔スル事理由ナキ事也  
二人以上ニ付  
第四款 複本ノ流通

複本ノ制度ハ安全ヲ爲メニ設ケタル同時ニ流通ノ便宜ヲ圖ルノ方法ナリ  
即チ一通ヲ以テ手形ヲ引受テ求ム他ノ一通ヲ以テハ其手形裏書ハ用ニ供  
ス此目的ヲ達スル爲メ複本ノ所持人ハ其手形ヲ引受テ求ム爲メニ支拂地ニ  
於テ一定ノ代人ニ之ヲ送付ス而シテ其代人ヲ以テ手形裏書支拂人ニ呈示シテ  
引受テ求ム此場合ニハ所持人ハ他ノ各通之複本ニ引受テ求ムル爲メニ迄  
付シタル手形ヲ送付先ヲ記入セサルベカラズ例ニ第一號ノ手形ハ引受テ求  
ムル爲メニ何處ノ何某ノ手形ニ在ルベシト明示スル事要ス其必要ハ第  
號以下ノ手形ハ譲受ハシテ第一號手形加算シテ何人ノ手形ニ在ルベシ知ルベシ

其手形ノ返還ヲ請求スル人ト處トス示ス大體此記載ノ名々ヲ寄託附記ト謂  
フ此寄託附記アル手形ヲ誰受ケタル所持人ハ其記載ニ依テテ第一號ノ手形ハ  
何人ノ手形ニ在ルベシ知ルヲ以テ直接ニ其人ニ對シテ第一號手形ノ返還ヲ請求  
シ其寄託ヲ受ケタル者ヨリ手形ヲ返還シタルトキハ此時ニ至リテ始メテ全部  
ノ手形ヲ手形入ルルベシト得之ニ依リテ支拂テ求ム又ハ全部ヲ譲渡ス  
コトヲ得ルニ至ル然レニ寄託ヲ受ケタル者ハ返還ヲ請求スル場合ハ其  
此場合ニハ所持人ハ第一號手形ノ返還ヲ請求シタルモ寄託ヲ受ケタル者ハ之  
ニ應セサル旨ヲ拒絕證書ニ依リテ證明スルハ外ハ他ノ一通又ハ數通ハ爲替手  
形ヲ以テスルモ仍ホ支拂人ヨリ引受テ得サルカ又ハ支拂ヲ得サル旨ヲ拒絕  
證書ヲ以テ證明スルモ非ナレ其前著ニ擔保又ハ償還ヲ請求スルベシト得  
ル事也  
第二節 爲替手形ノ贈本  
爲替手形ノ贈本ハ原本ノ贈寫ヲ過テ持人トシテ其主タル作用ハ原本  
ノ如何ナルモノナルカヲ示シ且之ヲ以テ渡還ノ便ナリ圖ル用ニ供ス銀五百圓

十二條ヲ以テ原本ノ作成ニ關スルコトヲ規定セリ即チ本條ノ規定ニ依リハ原本ノ作成ハ原本ノ作成ト異ナリ所持人自ラ任意ニ之ヲ作成スルコトヲ得原本ノ作成ニ付テハ獨リ振出人ニ限リテ之ヲ爲スコトヲ得且其作成ヲ請求スル手續モ煩雜ナルコト前述ノ如シ次ニ原本ノ效力ニ付テモ亦原本ト著シク異ナル點アリ原本ハ何レモ獨立ノ手形タリ得ルモノニシテ之ニ依リテ引受又ハ支拂ヲ求ムルコトヲ得ルノミナラス併セテ裏書ノ用ニ供スルコトヲ得ルモ原本ハ如何ナル場合ニ於テモ決シテ獨立ノ手形タル效力ヲ有セス原本ト相映テテ始メテ其作用ヲ爲スモノニシテ其主タル效用モ裏書ニ依リテ手形ノ流通ヲ容易ナラシムルニ過キス原本ノ如ク之ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ求ムルコトハ爲シ得タル所ナリ故ニ原本ヲ作成シタル場合ニ於テ引受ヲ求ムル爲メニ送付スベキモノハ必ス原本タラサルヘカラス

爲替手形ノ原本及リ原本

手形ノ裏書又ハ保證ハ原本ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得隨テ原本ニ記載シタル事項ト原本ニ記載シタル事項ト異ナル場合ヲ生ス即チ原本ニハ原本ニ記載シタル事項ノ外原本ニ記載ナキ裏書又ハ保證ノ記載アル事ナシトセス其場合ニ

ハ原本ニ記載シタル事項ト區別シテ原本ノ記載ヲ明瞭ナラシムルコトヲ要ス(第五二條第二項所持人カ原本ヲ作成シテ原本ヲハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタルトキハ其作成シタル原本ニ原本ハ引受ヲ求ムル爲メニ何人ノ手ニ在ルヤヲ記載セサルヘカラス(第五二三條第一項原本ノ所持人ハ此記載ニ依リテ原本カ何人ノ手ニ在ルヤヲ知ルヲ以テ直接ニ其人ニ對シテ原本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得(同條第二項然ルニ若シ寄託ヲ受ケタル者原本ヲ返還セサルトキハ原本ノ所持人ハ原本返還拒絕證書ニ依リテ其返還ヲ得テリシ事實ヲ證明スレハ原本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得又其原本ニ記載シタル満期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得第五二四條故ニ原本取戻ノ行爲ハ原本ヲ以テスル擔保請求又ハ償還請求ノ條件ナリ然レトモ原本ノ場合ト異ナリテ他ノ一通又ハ數通ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受タルコトヲ得テリシコトヲ拒絕證書ニ依リテ證明スルノ必要ナシ又原本ニ依リテ擔保又ハ償還ノ義務ヲ負擔スル者ハ其原本ニ署名シタル者ニ限ル其以外ノ前者ハ此ノ如キ義務ヲ負擔セス是レ亦原本ト異ナル點ナリ而シテ原本ニ署名シタル者トハ



裏書人又ハ保證人以外ハ原本ノ裏書人ニ限リ得テ口本ノ裏書人ト爲スルモノナリ  
原本ニ依ル過及權ハ原本ヲ以テスル過及權トモ差異ハ原本ヲ以テスル過及權  
ハ之ヲ行使スルモノハ左ノ事實アルコトヲ要スルモノナリ  
一 引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ返還ヲ請求シタルコト  
二 一ノ請求ヲ爲シタルモ其返還ヲ得ナシシハ請求者ハ原本ノ裏書人ト爲ス  
三 以上一二ノ事實ヲ拒絕證書ニ依リテ證明スルコト  
四 原本ニ記載スル満期日ヲ到來スルコト  
以上ノ事實アルハ原本ノ所持人ハ其原本ニ署名シタル者ニ對シテ償還請求ム  
ルコトヲ得之ハ一般ノ本手形ヲ以テスル償還請求ノ手續ト異ナレバ元來一般  
ノ償還請求ニ付テハ一ノ満期日又ハ其後二日以内ニ支拂ヲ求ムル爲メニ爲替手  
形ヲ呈示スルコト(一)呈示スルモ支拂ヲ得ナシコト(二)以上一二ノ事實ヲ支拂  
拒絕證書ニ依リテ證明スルコト(三)其拒絕證書ハ満期日又ハ其後二日以内ニ作  
成セシムルコト(四)拒絕證書作成ノ翌日マデ償還請求ヲ通知ヲ發スルコト以  
上ノ手續ヲ要ス若シ所持人ハ此等ノ手續人ニ一タモ怠ルモノハ前著ニ對スル

手形上ノ權利ヲ失フ然レモ原本ノ場合ニ於テハ一般ノ償還請求ハ二ノ場合  
手續ヲ要セス蓋シ支拂ハ爲替手形其モノニ依リテ請求スルコトヲ得ルモノニ  
シテ原本ヲ以テ支拂ヲ請求スルモノヲ得ス又原本ニ依ル償還請求ハ原本ニ  
記載セル満期日到來セル後ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ必  
シモ満期日又ハ其後二日以内ニ拒絕證書ヲ作成セシムル必要ナシ又其請求ス  
ルニ付テモ別ニ期限ノ定ナシ此ノ如クナルヲ以テ原本ニ依ル償還請求ニ付テ  
ハ偶所持人ハ手續ヲ怠ルモノモ後ニ之ヲ補充スレハ可ナリ一般ノ償還請求ノ如ク  
嚴格ナル制限ニ從テ必要ナシ普通ノ償還ニ於テハ償還ヲ爲ス者ハ爲替手形支  
拂拒絕證書及償還計算書ヲ引換ニ非ナレバ償還ヲ爲スコトヲ要セス然レモ  
原本ヲ以テスル償還ニハ何等ノ規定ナキヲ以テ民法第四百八十六條及第四百  
八十七條ノ規定ニ依リテ償還ヲ爲ス者ハ償還ノ請求者ヨリ受取證書ヲ徵シ  
又ハ原本ヲ返還シタルコトヲ得ルニ過キスルモノナリ

### 第三章 爲替手形ノ變調大ニ行動ニ於ケル法律關係



### 第一節 爲替手形ノ過及權

是マテ述ヘタル所ハ爲替手形ニ振出サレタロリ其消滅ニ至ルマテノ流通ノ上ニ何等ノ故障ナキ場合ノミナリ然ルニ爲替手形ハ其流通ノ際ニ於テ引受ヲ得タルカ爲メ又ハ支拂ヲ得タルカ爲メニ其行動ニ變化ヲ來スコトアリ其變動ノ所謂手形ノ過及權ナルモノニ基ク手形ノ過及權トハ取テ擔保請求權及ヒ償還請求權ノ二ヲ指ス第一ノモノハ手形ノ引受ナキ場合ニ發生シ第二ノモノハ其支拂ナキ場合ニ發動スルモノナリ

**第一款 擔保請求權**

爲替手形ノ振出人及ヒ裏書人ハ其手形ノ引受及ヒ支拂ニ付テ法律ノ規定ニ依リテ當然之ヲ擔保ス今若シ手形ノ流通ニ際シテ所持人カ支拂人ニ對シテ引受ヲ求メタルニ難期シタル引受ヲ得ザリシトキハ手形ノ信用ハ頗ル不確實ト爲リテ或ハ到底満期日ニ至リテ支拂ヲ得サルヤノ疑念ヲ發生シ隨テ手形ノ流通

### 第一項 擔保請求ノ場合

上ニ大カク妨害ヲ與フ此故障ヲ除ク爲メモ所持人ニ前者ノ手形金額ノ支拂ニ付テ相當ノ擔保ヲ供セタルヘカラス所持人ハ此ノ如キ場合ニ於テハ前者ノ何レニ對シテモ擔保ヲ供スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

擔保請求ノ場合ハ大別シテ二ト爲ル一ハ引受ナカリシ場合ニ引受アルニ其引受人カ破産シタル場合はナリ

第一引受不欠缺ニ基ク擔保請求權

支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲サザリシトキ又ハ手形金額一部分ノミニ付テ引受ヲ爲シタルトキハ擔保請求權發生ス即チ全部ノ引受ヲ爲サザリシトキハ其全部ニ對シ一部分ノ引受アル場合ニハ其殘額ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得第四七四條前者ナル裏書人カ所持人ヨリ擔保請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ自己ノ前者ニ對シテ自己カ擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得第四七六條

第二 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ノ擔保請求權

此場合ハ既に引受人アルヲ以テ通常擔保ヲ請求スルニ理由ナシト雖モ其引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルハ其手形ノ所持人ハ頗ル不安全ニ地位ニ立ツベシナルヲ以テ其手形ノ信用ヲ維持スル爲メ相當ノ擔保ヲ供與スル義務ハ其支拂人アルモ其者カ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキニ限リ所持人ハ前者ニ對シテ擔保請求權ヲ行使スルコトヲ得(第四八〇條)

所持人ハ右ノ手段ヲ採ルニ付テハ拒絕證書ヲ作成セシメテ一般ノ擔保請求ニ於ケルカ如ク前者ニ對シテ擔保請求ノ通知ヲ發セタルヘカラス而シテ此請求ヲ受ケタル前者即チ裏書人ハ更ニ自己ノ前者ニ對シテ擔保スヘキ金額並ニ其費用ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第二項 擔保請求ノ手續

(一) 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササルカ又ハ六部分ノ引受ヲ爲ササル

場合ニハ所持人ハ引受拒絕證書ヲ作成セシメテ擔保ヲ供與シテシタル前者ニ對シテ遲滞ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

(二) 裏書人カ擔保ヲ請求ヲ爲スニハ其前者ニ對シテ遲滞ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス(第四七五條、第四七六條)

(三) 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ノ擔保請求手續ハ右ニ述ベタル(一)ノ手續ニ準ス(第四八〇條第二項)

以上三ノ手續ニ通シテ必要ナルハ擔保請求ノ通知ナリ此通知ハ遲滞ナク發スルニ非ナレハ縱令引受ナキ場合ト雖モ前者ハ擔保ヲ供スルヲ要セス蓋シ通知ノ義務ヲ法律ニ認メタル所以ハ前者カ突然ニ擔保請求ヲ受タルコトナキカ爲メニ設ケタルモノナリ即チ前者ラシテ擔保ヲ提供スルニ付テ準備期間ヲ與フルノ趣意ナリ又此通知ノ發送ハ嚴格ナル期間ノ定ナシト雖モ遲滞ナク之ヲ發送スルコトヲ要ス尙ホ通知ノ形式ニ付テハ何等ノ制限ナキヲ以テ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ發スルモ妨ナク即チ書面又ハ使者ヲ以テスルモ此要件ニ缺クル所ナシ

第三項 擔保ノ設定

第四百七十七條ノ規定ニ依リテ擔保ヲ請求スル受託タル者ハ相當ノ擔保ヲ供セ  
ザルヘカラス但之ヲ提供スルニ付テハ遲滯ナク引受拒絕證書ヲ引換ニ供スヘ  
キモノナリ又他ノ方法ハ擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルモノヲ得今左ノ  
之ヲ分説セン

(一) 供スル擔保ハ相當ナルヲ要ス。擔保ノ程度ハ相當ナルヲ以テ足ル

別ニ手形金額ニ對スル非ヲ定メタル規定ナキヲ以テ其當時ノ事情ニ依リ手形金額ニ對シテ適當ナリト認ムル所ノ擔保ヲ供スルヲ以テ可ナリトス又其供スヘキ擔保ノ種類ハ何等ノ制限ナキヲ以テ質權抵當權又ハ對人擔保ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

(二) 擔保スヘキ額ハ全部ノ引受ナキトキハ手形金額及ヒ費用ノ對シ一部ノ引受ノ場合ニハ其殘額並ニ費用ニ對シ裏書人ニ對スル場合ニハ其裏書人カ擔保スヘキ金額並ニ費用ニ對シテ相當ノ擔保ナルコトヲ要ス

(三) 擔保ヲ設定スル手續トシテハ擔保義務者ハ引受拒絶證書ヲ引換ニ非ナレハ之ヲ設定スルコトヲ要セス故ニ擔保請求者カ引受拒絶證書ヲ交付セザル場合合ニハ前者ハ擔保ノ設定ヲ拒絶シトヲ得

第四項

前者カ所持人ノ請求ニ應シテ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其擔保ノ效力ハ單ニ其請求ヲ爲シタル特定ノ所持人ノ爲メニミ又其所持人ニ對シテ

ノミ發生スルニ止マラスシテ廣ク後者全員ノ爲メニ且其後者全員ニ對シテ擔保ヲ供シタルモノト看做ス(第四七八條第一項)後者全員ノ爲メニ供シタルモノト看做サルカ故ニ例ヘハ茲ニ甲—乙—丙—丁—戊—己—庚—辛—壬ノ如ク裏書アル場合ニ庚ナル者カ所持人ナルトキニ引受ヲ求メタルモ之ヲ拒絕セラレタルカ爲メニ丙ナル前者ニ對シテ擔保ヲ請求シ丙カ擔保ヲ供シタルトキハ其後者全員ノ爲メニ供シタルモノト看做サルルヲ以テ丁以下庚ニ至ル後者ハ勿論庚ナル者カ後日手形ヲ譲渡シ遂ニ壬カ最終ノ所持人タル場合ニ於テ先キ丙カ供シタル擔保ハ辛ノ爲メニモ供シタリト看做サルルヲ以テ縱令後ニ壬カ更ニ引受ヲ求メテ拒絕セラレタルモ既ニ丙カ最初庚ノ請求ニ應ジテ擔保ヲ供シタル以上ハ丙カ再ヒ擔保ヲ請求ヲ受タルコトナキハ勿論丁以下ノ者ハ總テ再ヒ擔保ヲ請求ヲ受タルコトナシ又後者全員ニ對シテ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルモノト看做サルルヲ以テ前例ニ於テ丁以下ノ者ハ總テ其擔保又ハ供託金ノ上ニ權利ヲ有シ隨テ後者ハ總テ支拂ニ付テ擔保ヲ得タルコトナルヲ以テ後者ノ各員ハ何レモ丙以下ノ者ニ對シテハ勿論乙以上ノ者ニ對シテモ同一重キ

擔保ヲ請求スルコトヲ得ルモノト以テ丙カ最初庚ノ請求ニ應ジテ擔保ヲ供シタル以前者ハ總テ再ヒ擔保ヲ請求スルコトヲ得ルモノト以テ前例ニ於テ丁以下ノ者ハ總テ其擔保又ハ供託金ノ上ニ權利ヲ有シ隨テ後者ハ總テ支拂ニ付テ擔保ヲ得タルコトナルヲ以テ後者ノ各員ハ何レモ丙以下ノ者ニ對シテハ勿論乙以上ノ者ニ對シテモ同一重キ

### 第五項 擔保ノ消滅

一タヒ設定シタル擔保又ハ供託金ハ設定原因ノ消滅又ハ法定期限ノ經過ヲ因リテ消滅シ又之ヲ取戻スコトヲ得(第四七九條) 二タヒ後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ 三タヒ擔保請求權ハ手形ノ單純ナル引受カキ爲メニ發動スルモノナルヲ以テ若シ後日單純ナル引受アルモノハ擔保ノ消滅スヘキハ當然ノ事ナリ 四タヒ擔保ノ設定ハ手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタル爲メニ爲メニ保證スルモノナルヲ以テ其支拂アルニ至レハ消滅スヘキハ亦當然ノ事ナリ 第三—擔保ヲ供シ若シハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者ハ償還ヲ爲シタルモノ



第四百八十一條ヲ以テ之ヲ規定セリ。即チ一般ノ擔保ノ消滅スベキ場合ニ付  
第四百七十九條ニ規定セル第二號乃至第五號ノ事情アル場合ノ外向ホ左ノ  
二箇の場合ニ於テ消滅ス。一、爲替手形ノ爲替人ノ破産ニ付、爲替手形ノ爲替人  
第一ノ豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ、爲替手形ノ爲替人  
蓋シ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ、爲替手形ノ爲替人ノ請求ハ若シ豫備支拂  
人カ設定シアル場合ニハ其豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲サナリシコトヲ以  
テ條件トモリ隨テ後日ニ至リ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲シタル以上ハ供  
シタル擔保ヲ存在セシムヘキ理由ナシ

第二、引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ、引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ別ニ相當ノ擔保ヲ供セサルトキニ始メ  
引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ別ニ相當ノ擔保ヲ供セサルトキニ始メ  
テ前者ニ對シ擔保ヲ請求シ得ヘキ。故ニ引受人自身カ後日ニ至リ相當ノ擔保  
ヲ提供スレハ前者カ供シタル擔保ヲ存在セシムルノ要ナシ。然レモ爲替手形ノ爲替人  
ハ、爲替手形ノ爲替人ノ破産ニ付、爲替手形ノ爲替人ノ權利ナル法律關係ニ於テ、爲替手形ノ爲替人  
第二、引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ、引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ別ニ相當ノ擔保ヲ供セサルトキニ始メ  
引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ別ニ相當ノ擔保ヲ供セサルトキニ始メ  
テ前者ニ對シ擔保ヲ請求シ得ヘキ。故ニ引受人自身カ後日ニ至リ相當ノ擔保  
ヲ提供スレハ前者カ供シタル擔保ヲ存在セシムルノ要ナシ。然レモ爲替手形ノ爲替人  
ハ、爲替手形ノ爲替人ノ破産ニ付、爲替手形ノ爲替人ノ權利ナル法律關係ニ於テ、爲替手形ノ爲替人

第二款 償還請求權

爲替手形ノ振出人以下ノ前者ハ所持人ニ對シテ引受ナカリシ場合ニ擔保請求  
ニ應スヘキ義務ヲ負フ外ニ其手形ノ支拂ナキ場合ニハ其不支拂ヨリ生スル一  
定ノ損害ヲ補償スルノ義務ヲ負擔ス。是レ即チ手形法ニ所謂償還ノ義務ナリ。此  
償還ノ義務ニ付テハ之ヲ請求スル人ノ側ヨリ觀レハ手形ノ所持人カ之ヲ請求  
スル場合ト所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人カ更ニ前者ニ向テ償還ヲ  
請求スル場合トノ二アリ。然レモ爲替手形ノ爲替人ノ破産ニ付、爲替手形ノ爲替人ノ權利ナル法律關係ニ於テ、爲替手形ノ爲替人

第一項 所持人ノ償還請求

第一、償還請求ノ場合、爲替手形ノ爲替人ノ破産ニ付、爲替手形ノ爲替人ノ權利ナル法律關係ニ於テ、爲替手形ノ爲替人  
償還請求ノ發動スル場合ハ即チ爲替手形ノ支拂アラナリシ場合ナリ。隨テ其時  
期ハ少クトモ満期日以後ナラサルヘカラス

第二、償還請求ノ手續、爲替手形ノ爲替人ノ破産ニ付、爲替手形ノ爲替人ノ權利ナル法律關係ニ於テ、爲替手形ノ爲替人  
償還請求權ヲ行使スルニ付テノ手續ハ第四百八十七條ヲ以テ之ヲ規定セリ。即  
チ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ支拂ヲ求ムル爲メニ爲替手形ヲ



支拂人ニ呈示シ若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ滿期日又ハ其後二日以内ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絕證書作成ノ翌日マデニ償還請求通知ヲ發スルコトヲ要ス隨テ償還請求ニハ左ノ條件ヲ要ス

(一) 支拂人ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルモ支拂ヲ得サリシコト 手形ノ所持人ハ支拂人ヲ手形ニ呈示シテ支拂ヲ求メサルヘカラス支拂人以外ノ者ニ手形ヲ呈示スルモ償還ノ請求ニ必要ナル手續ヲ盡シタルモノト謂フヘカラス又之ヲ呈示スヘキ期間ハ滿期日又ハ其後二日以内ニシテ此期間ヲ經過シテ手形ヲ呈示シタル場合ニハ償還請求權ヲ行使スルコトヲ得ス又呈示ハ原則トシテ支拂人ニ對シテ呈示スルモノナレトモ他所拂手形ニ於テ支拂擔當者ノ記載アルトキハ支拂擔當者ニ之ヲ呈示セサルヘカラス償還請求ヲ爲スニ付テ手形ヲ呈示スルハ常ハ人ニ對シテ爲ササルヘカラサルモ若シ之ヲ受クル人カ一定ノ場所ニ在ラサルトキハ拒絕證書ニ其呈示ヲ受クル人ニ面會スルコト能ハサル理由ヲ記載スレハ恰モ人ニ對シテ手形ノ呈示ヲ

リタルモノト同様ニ視ルヘキハ第五百十五條第三號末段ノ規定ニ依リテ明カナリ

呈示ヲ爲スヘキ期間ハ滿期日又ハ其後二日以内ナルモ此期間内ニ大祭日、日曜、日其他ノ休業日ニシテ取引ヲ爲ササル慣習日アルトキニ仍ホ其日ニ手形ヲ呈示セサルヘカラサルヤ否ヤノ點ニ付テハ我商法中ニハ營業日ニ限リテ手形ヲ呈示セサルヘカラストスル規定ナキカ故ニ手形ノ呈示ハ問題ノ如キ營業セサル日ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス又滿期日又ハ其後二日以内ノ呈示期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當リテ其日ニ取引ヲ爲ササル慣習アル場合ニ在リテモ仍ホ手形ノ呈示ヲ爲ササルヘカラサルヤ否ヤノ點ニ付テハ特ニ手形法ニ規定ヲ設ケタルモノナシト雖モ第四百八十七條第一項ノ規定ニ依レハ呈示ノ期間ハ拒絕證書ノ作成期間内ト云フコトニシテ本條ニハ直接ニ拒絕證書作成ノ期間ヲ規定シタルモノニシテ呈示期間ノ制限ハ拒絕證書ノ作成期間ヲ限リタル結果トシテ間接ニ第四百八十七條ヨリ自ラ定マルモノナリ果シテ第四百八十七條カ直接ニ規定スル期

間ノ制限ハ拒絕證書ノ作成期間ナリトセハ拒絕證書ノ作成ハ一ノ取引ト謂フヲ得ナルカ故ニ呈示ノ期間ニ付テハ直チニ民法第四百十二條ヲ適用シテ其期間ノ延長ヲ論スルコトヲ得ス

呈示時間ニ付テハ手形法中ニ特ニ規定シタルモノナシ故ニ原則トシテ何時ニテモ之ヲ呈示スルコトヲ得然レトモ商法第二百八十三條ノ規定ニ依リ手形ノ支拂カ債務ノ履行ナルトキハ法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限リ呈示ヲ爲スコトヲ得

次ニ呈示スヘキ書面ハ爲替手形其モノナルコトヲ要ス應本ヲ呈示スルモ償還請求ニ必要ナル手續ヲ履行セルモノト謂フヘカラス又呈示スヘキ場所ハ第四百四十二條ノ規定ニ依リテ定マル

(二) 支拂拒絕證書ノ作成 支拂ヲ求ムルカ爲メニ爲替手形ヲ呈示シ其支拂カ拒絕セラレタル事實ノミニテハ直チニ償還請求權ヲ行使スルコトヲ得ス其拒絕ノ事實ヲ確實ニ證明スルカ爲メニ一定ノ期間内ニ支拂拒絕證書ナルモノヲ作成スルノ要アリ即チ此書面ハ公證人又ハ執達吏カ手形所持人ノ請求ニ應シ

テ作成スルモノニシテ支拂カ拒絕セラレタルコトヲ記載セル公證力アル書面ナリ故ニ拒絕證書ヲ以テハ所持人カ法定ノ期間内ニ手形ヲ呈示シタルコト之ヲ呈示シタルモ支拂カ拒絕セラレタルコト並ニ其拒絕證書ノ作成ハ法定ノ期間内ニ作成セラレタルコトヲ明瞭ナラシムルヲ要ス而シテ拒絕證書ノ作成期間ハ満期日又ハ其後ノ二日以内ナルコトハ前述ノ如シ

支拂拒絕證書作成ノ免除 原則トシテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絕證書ヲ要スルモ元來拒絕證書ノ作成ハ公益規定ニ非サレハ必スシモ此證書ニ據ラストモ償還請求權ヲ行使スルコトヲ許セリ是レ即チ第四百八十九條ヲ以テ支拂拒絕證書作成ノ免除ヲ認メタル所以ナリ即チ前者カ一定ノ人ニ對シテ拒絕證書作成ノ義務ヲ免除スル旨ヲ手形ニ記載シタルトキハ其免除ヲ受ケタル者ハ一般ノ拒絕證書ノ方式ニ據ラスシテ他ノ如何ナル證據方法ヲ以テスルモ支拂ナカリシコトヲ證明スレハ其前者ハ償還ヲ爲ササルヘカラス然レトモ元來拒絕證書ノ作成ナルモノハ單ニ前者ノ利益ナルノミナラス償還ノ請求スル所持人ニ取リテモ最も確實ナル證據方法ナレハ或前者カ拒絕證書作成ノ義務ヲ免

除シタリト所持人ニ於テ之ヲ作成スヘキ權利ヲ失フモノニ非ス且縱令特定ノ前者ヨリ其免除ヲ得ルモ其者以外ノ前者ニ對シテハ尙ホ拒絕證書ヲ作成スルニ非サレバ償還ヲ請求スルコト能ハサルヲ以テ所持人ハ縱令特定ノ人ヨリ免除ヲ受ケタルトモ雖モ拒絕證書ヲ作成スルヲ以テ最モ安全ナリトス是レ即チ第四百八十九條第二項ヲ以テ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルコトヲ得スト規定セル所以ナリ

拒絕證書ノ作成免除ノ效果ハ單ニ之ヲ免除シタル者ニ對シテ拒絕證書ヲ作成セシテ償還ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マリ之カ爲メニ手形ヲ支拂人ニ呈示スル所ノ義務ヲ併セテ免除スルノ效果ヲ生スヘキモノニ非ス隨テ拒絕證書ノ作成ヲ免除セラレタル所持人ト雖モ償還ヲ請求スルカ爲メニハ手形ヲ支拂人ニ呈示スルコトヲ必要條件トス又一方ニ於テハ縱令拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル場合ト雖モ手形ノ呈示並ニ支拂拒絕ノ事實ヲ證明スヘキ責任マテ全然免除シタルモノト謂フコトヲ得ス拒絕證書作成ノ免除ハ手形ノ呈示並ニ支拂

拒絕ノ事實ヲ拒絕證書タル書面ニ依リテ爲スル義務ヲ免除シタルモノハ通過キシテ權利ノ立證責任ヲ免除シタルモノト謂フコトヲ得ス故ニ償還ヲ請求ヲ受ケタル者カ呈示並ニ拒絕ノ事實ヲ否認スル場合ニハ所持人ハ其事實ヲ反證スルニ非タレバ到底償還ヲ受クルコトヲ得ス

拒絕證書ノ作成ハ如何ナル書面ニ記載スルコトヲ要スルヤニ付テハ商法中何等ノ規定ヲ有セス前述シタル如ク引受ニ付テハ爲替手形其モノニ記載セタルヘカラス又裏書及ヒ保證ハ同シタ爲替手形其原本又ハ補箋ニ之ヲ記載スルコトヲ得ルハ手形法ニ規定スル所ナリト雖モ拒絕證書作成免除ノ記載ニ付テハ此等ノ規定ナシ故ニ此趣旨ヨリ觀ルトキハ免除ノ趣旨ヲ記載スヘキ書面ニ付テハ特ニ法律ヲ以テ之ヲ制限セタルモノト解セタルヘカラス隨テ手形其れ自身其原本又ハ補箋ニ免除ノ趣旨ヲ記載シテ手形上ノ效力ヲ生セシムルコトヲ得ト解セタルヘカラス其他免除ハ他ノ書面ヲ以テ爲スモ或ハ文口頭ヲ以テ之ヲ爲スモトヲ得ルモノト謂フハサルヘカラス然レトモ斯ル場合ニ手形上ノ效力ヲ生セサルコトハ首ヲ埃タス



爲持手形ノ所持人カ前審ニ對シテ償還ヲ請求シ得ル金額ハ第四百九十一條ヲ以テ之ヲ規定ス即チ左ノ如シ

(一) 支拂アラナリ手形金額及ヒ満期日以後ノ法定利息ハ蓋シ償還ハ手形金額不支拂ヨリ起ルモノナルヲ以テ支拂アラナリ手形金額ヲ償還スルハ當然ナリ即チ其金額ハ全部ノ不支拂ノ場合ニハ其全部一部不支拂ノ場合ニハ其幾額ナリ次ニ満期日以後ノ法定利息ハ償還セラルヘカラス即チ其手形ノ満期日ヨリ起算シテ年六分ノ利息ヲ附シ償還セラルヘカラス此利息ヲ附スヘキ期間ハ満期日ニ始マリ實際償還ヲ受タル日マデナリ此利息ノ請求ニ付テ茲ニ一言セラルヘカラスナルコトハ本條ニ規定セル利息ハ遲延利子ノ性質ニ非タルコト是ナリ何トナレハ本條ノ規定ニ依レハ縱令手形ノ呈示ハ満期日ノ後ニ在リ場合ニ於テモ尙満期日ヨリノ利子ヲ償還セラルヘカラス若シ遲延利子ナレハ手形ノ呈示アリタリシ以後ノ利息ヲ規定セラルヘカラスト雖モ第四百九十一條ニハ如何ナル場合ニ於テモ満期日以後ノ利息ヲ辨償スルハ規定ナレハナリ

(二) 拒絕證書作成ノ手数料其他ノ費用ハ償還請求權ヲ行使スルニ付テハ拒絕

リ賣買ノ目的物ニ付キ取戻權ヲ有ス然レトモ買主カ賣主ソ爲メニ手形ノ引受ヲ爲シタルコト其他辨償ノ擔保ヲ供シタルコト等ノ如キ關係ハ代價ノ完済ト爲ルコトナシ買主カ代金辨償ノ爲メニ賣主ニ手形ヲ交付シタル場合亦通則上代價ノ完済ト爲ラス蓋シ斯ル場合ニ於テハ賣主又ハ其後者カ手形金ヲ完全ニ受取リタルニ因リテ代價ノ完済ト爲ルモノナレハナリ故ニ賣主ハ後日手形金ノ支拂アリタルトキハ之ヲ破産財團ニ返還スヘキ債務ヲ留保シテ取戻權ヲ行フモノナリ但特約上賣主カ代金ノ支拂ニ代ヘテ手形ヲ受取リタルトキハ代物辨償ト爲ルヲ以テ買主ノ破産ニ於テ賣買ノ目的物ニ付キ取戻權ヲ有スルコトナキヤ當然ナリ此ノ如ク代價ノ完済ナキコトヲ要スル理由ハ賣主ト買主ヨリ其破産宣告前ニ於テ代價ノ完済ヲ受ケタルトキハ隔地取引ニ付キ毫モ損失ヲ被ルルコトナク隨テ賣主ニ取戻權ヲ認メテ之ヲ保護スルノ必要ナキヲ以テナリ要件賣主ノ取戻權ニ因リテ發生スル效力ノ第一ハ前述ノ如ク賣買ヲ解除セシメテ之ヲ履行前ノ原狀ニ回復シ賣買關係ヲシテ賣主カ未タ賣買ノ目的物ニ所有權及ヒ占有權ヲ買主ニ移轉セサルノ狀態ニ在ラシムルニ在リ「ボツセルト」

「ウキルモースキ」氏等が買入ノ目的物ノ發送以後ニ發生シタル狀態ヲ斯ル發送當時ノ原狀ニ回復シ之ヨリ以後ニ於ケル債務ノ履行ヲ廢止スルモノナリト曰ヘル見解ハ買入ノ目的物ノ所有權カ其發送以前ニ買主ニ移轉シタル場合ニ於テ賣主カ取戻權ノ效力トシテ所有權ヲ回復スルハ法理ヲ説明スルコト能ハサルカ故ニ我破産法ノ解釋トシテハ狹キニ失スト謂スヘシ故ニ(甲)買入ノ履行解除及ヒ損害賠償等ノ法律關係ハ買主ノ破産宣告ノ當時ニ於テ當事者雙方カ未タ其債務ヲ履行セザリシ雙務契約ニ於ケルト同シテ破産法及ヒ實體法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定メサルヘカラス(商法第九九三條破産法案第五九條獨逸破産法第一七條是ヲ以テ管財人カ破産財團ノ爲メニ買主タル債務ヲ履行シ且賣主ノ債務履行ヲ欲スル旨ノ意思ヲ表示シタルトキハ賣主ハ其債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス蓋シ斯ル場合ニ於テハ賣主ハ管財人カ買主ノ債務ヲ財團債務財團債權トシテ履行スルカ故ニ毫モ損失ヲ受クルコトナケレハナリ換言セハ賣主ハ其取戻權ノ行使ニ依レル債務履行前ノ原狀回復ニ因リテ管財人カ破産財團ノ爲メニ破産者ニ代リテ買主タルノ債務ヲ履行スルコトヲ欲シ且賣主ニ對シ

其債務ノ履行ヲ求ムル旨ノ意思ヲ表示スルニ非サレハ買入ノ目的物ノ引渡ヲ管財人ニ對シ拒絶スルコトヲ得ヘキ地位ニ在ルニ過キナリ隨テ管財人カ斯ル意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依リテ賣主ハ其買入ノ目的物ヲ破産財團ヨリ取戻スコトヲ得ス之ニ反シテ管財人カ斯ル意思ヲ適當ナル時期ニ表示セタルトキハ賣主ハ管財人ニ對シテ催告ヲ爲シ若シ管財人カ斯ル催告ニ應セザルトキハ賣入ノ履行ヲ欲セタルコトト爲ル管財人カ破産財團ノ爲メニ賣入ノ履行ヲ不利益ト認メ之ヲ爲スコトヲ欲セタルトキハ賣主及ヒ買主ハ賣買契約ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス(商法第九九三條、民法第五四五條第三項)其詳細ノ説明ハ破産ノ效力ニ之ヲ讓ル又管財人カ買入ノ履行ヲ欲セス若シハ管財人及ヒ賣主カ契約ノ解除權ヲ行使セザリシ場合ニ於テハ賣主ハ契約ノ不履行ニ基ク損害賠償請求權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得然レトモ代金ノ支拂ヲ目的トスル請求權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ス蓋シ賣主ハ取戻權行使ノ結果トシテ賣入ノ目的物ヲ保有スレハナリ(乙)賣主ハ買主ヨリ受取リタル代金ノ一部及ヒ手附金ヲ返還スヘキ



義務ヲ負フ獨逸ノハイタルゼン氏ハ賣買契約ハ賣主ノ取戻權ノ行使又ハ管財人カ賣買ノ履行ヲ欲セタル旨ノ意思表示ニ因リテ消滅スルコトナシ隨テ賣主ハ代金ノ支拂ニ付キ請求權ヲ有ストノ理由ヲ以テ取戻權ヲ行使シタル賣主カ買主ヨリ受取リタル代金ノ一部ヲ所持スルモ法律上ノ原因ヲ缺クモノニ非ス隨テ不當利得ト爲ラス仍テ返還ノ義務ナシト論決シタリト雖モ多數ノ學者ノ認メタル所ナリ蓋シ然ラスンハ賣買關係カ其履行前ノ原狀ニ回復セラレタルモノト謂フコトヲ得タレハナリ又賣主ハ取戻權ノ行使ニ因リテ生シタル費用ハ自ラ之ヲ負擔シ又之ヲ立替ヘタル管財人ニ賠償セサルヘカラス蓋シ斯ル費用ハ賣主ノ利益ノ爲メニ生シタルモノナルノミナラス賣主ハ無償ニテ賣買ノ目的物ニ付キ送戻ヲ請求スルノ權利ヲ有セタレハナリ然レトモ賣主ハ取戻權ノ行使ニ因リテ生シタル費用ノ賠償ヲ損害賠償ニ基テ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ヘシ何トナレハ斯ル費用ハ買主ノ契約不履行ニ因リテ生シタルモノナレハナリ管財人カ賣買ノ履行ヲ欲スルヤ否ヤニ關スル意思ノ表示ヲ不當ニ遲延シタルニ因リテ生シタル損害ハ之ヲ財團債權トシテ主張シ(商法第一〇

三二條)獨逸破産法第五九條第一號又買主タル荷受人破産者カ約旨ニ從ヒ負擔スヘキ發送費用ハ管財人カ破産財團ノ爲メニ賣買契約ノ履行ヲ欲シタルトキニ限リ代金ノ支拂ヲ目的トスル債權ト同シテ財團債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得(商法第一〇三二條)獨逸破産法第五九條第一號其第二ハ賣主カ取戻權ヲ有スル賣買ノ目的物ハ破産財團ニ屬セタルコト是ナリ故ニ(甲)管財人ハ斯ル目的物ノ到達ノ前後ヲ問ハス之ヲ處分スルノ權限ヲ有セス(商法第三三五條第六二九條)是ヲ以テ管財人カ賣買ノ目的物取戻權ノ目的物ヲ處分シ未タ之ヲ相手方ニ引渡ササル間ハ賣主ハ破産財團中ニ現存スル賣買ノ目的物ニ付キ取戻權ヲ行使スルコトヲ得但斯ル處分カ管財人ノ破産財團ノ爲メニ賣買ノ履行ヲ欲スル默示ノ意思表示ト認ムルコトヲ得サルトキ即チ管財人カ斯ル處分ヲ爲スノ當時取戻權ノ目的物タルコトヲ知ラザリシトキ又ハ斯ル處分ヲ爲シタルニ拘ハラズ賣買ノ履行ヲ欲セタル旨ノ意思ヲ明示シタル如キ場合ニ限ルヤ當テ埃タス(民法第一七八條)之ニ反シテ管財人カ賣主ノ取戻權ノ目的物ヲ處分シ既ニ之ヲ相手方ニ引渡シタルトキハ賣主ハ後述ノ如ク管財人カ該處分ニ因リテ

受取ルヘキ反對給付ヲ目的トスル權利ニ付テ讓渡ヲ請求シ又ハ破産財團中ニ  
現存スル反對給付ニ付キ財團債權トシテ請求ヲ爲ス(破産法案第七七條參照)(乙)  
買主カ其破産宣告前ニ買入ノ目的物ヲ處分シタルモ未タ之ヲ相手方ニ引渡サ  
タルトキハ賣主ハ買主カ斯ル處分ヲ爲サザリシ場合ニ於ケルト同シク賣入ノ  
目的物ニ付キ取戻權ヲ行使スルコトヲ得(民法第一七八條)而シテ斯ル場合ニ於  
テハ管財人ハ買主ノ相手方タル第三者ニ對シテ契約不履行ニ因リテ生スル損  
害賠償ヲ避クルカ爲メニ賣主ニ對シテ賣入ノ履行ヲ欲スル旨ノ意思ヲ表示シテ  
賣主ノ取戻權ノ行使ヲ止ムルヲ得ルヤ言フ埃タス但取戻權ノ目的物カ破産財  
團中ニ現存セザルトキハ賣主ハ反對給付ヲ目的トスル權利ニ付キ讓渡ヲ請求  
シ又ハ破産財團中ニ現存スル反對給付ニ付キ財團債權トシテ權利ヲ主張スヘ  
キモノナルヤ後述ノ如シ之ニ反シテ買主カ其破産宣告後ニ於テ取戻權ノ目的  
物ヲ處分シ且之ヲ相手方ニ引渡シタルトキハ該行為ハ破産債權者團體ニ對シ  
無効ナルヲ以テ(商法第九八五條第二項)管財人カ斯ル目的物ヲ破産財團ノ爲メ  
ニ取戻シタル場合ニ於テハ賣主ハ該目的物ニ付キ取戻權ヲ行使スルコトヲ得

若シ管財人カ破産者ノ行為ヲ是認シテ該目的物ヲ取戻サザルトキハ管財人カ  
破産財團ニ屬スルヲ理由トシテ買主ノ相手方タル第三者ヨリ取立ヲヘキ反對  
給付ヲ目的トスル權利又ハ其權利ノ行使トシテ破産財團ニ屬シタル反對給付  
ニ付キ權利ヲ主張スルヲ得ルコトハ管財人カ取戻權ノ目的物ヲ處分シタル場  
合ニ同シ其第三ハ取戻權ハ其效力ヲ第三取得者ニ對シテ及ホスコトヲ得ルコ  
ト即チ是ナリ元來賣主ノ取戻權ハ前述ノ如ク債權の請求權ナルヲ以テ唯破産  
者タル買主ニ對シテ成立シ且管財人ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノニ  
過キスト雖モ之ニ依リ賣買カ履行前ノ原狀ニ回復スルモノナルヲ以テ取戻權  
ヲ有效ニ行使シタル以後ハ賣主ハ第三取得者所有者質權者ニ對シテ所有權又ハ  
占有權ニ基キ賣入ノ目的物ノ返還請求其他ノ主張ヲ爲スコトヲ得ヘシ但第三  
取得者カ其取得ノ當時善意即チ取戻權ノ存在ヲ知ラザルカ爲メニ實體法ノ規  
定ニ從ヒ他人ノ財産上ニ取得シタル權利ヲ維持スルコトヲ得ルトキハ此限ニ  
在ラサルナリ(民法第一九二條第一九五條等)獨逸ニ於テハ「エックテル・オエグル」ヒ  
ユルマン氏等ハ消極論ヲ主張シ其理由トシテ賣主ノ取戻權ハ其性質上破産者

及ヒ管財人ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得ヘク第三取得者ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得ス而シテ第三取得者カ惡意殊ニ賣主ノ取戻權ノ實効ナカラシメシカ爲メニ買主ヨリ賣主ノ目的物ヲ讓受ケタルカ如キ場合ニ於テハ賣主ハ第三取得者ニ對シ不法行爲ニ基テ損害賠償ヲ請求スルノ權利ヲ有スルニ過キスト曰ヒ(獨逸民法第八二三條之ニ反シテ「ベーターゼン」ウキルモースキ「ボッセ」ルト氏等ハ積極論ヲ主張シ其理由トシテ取戻權ノ有效ナル行使ニ依リテ賣主ノ目的物ニ付キ破産者タル買主ノ有スル所有權ハ既往ニ遡リテ存在セス隨テ第三取得者ハ所有者ニ非ナリシ者ヨリ賣主ノ目的物ニ付キ權利ヲ取得シタルモノ又破産者タル買主ノ有スル占有權ハ賣主ニ對スルト同シテ第三取得者ニ對シテモ存在セナリシモノト爲ルカ故ニ賣主ハ第三取得者ニ對シ所有權又ハ占有權ニ基キ目的物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ但第三取得者カ實體法ノ規定ニ從ヒ他人ノ所有物ニ付キ取得シタル權利ヲ有效ニ維持スルコトヲ得ル場合殊ニ第三取得者カ其取得ノ當時善意即チ取戻權ノ存在ヲ知ラナリシトキハ此限ニ在ラスト曰ヘリ(獨逸民法第九三二條第一二〇七條獨逸商法第三六六

爲メニ城ハ強制豫算或ハ派遣官吏等ノ方法ヲ用ラルトアルナリ而シテ監督ノ寬嚴ハ國ノ事情ニ依リ異ナリ法制上其授ク「」ニモスト雖モ然レトモ監督嚴シ極ムルトキハ團體ノ意思ヲ全ク無視スルコトヲ爲リ其結果自治公共團體ヲ消滅セシムルモノナリニ由リ之ヲ許スヘカラナルコトナリ今右ニ述ベタル所ヲ要約シテ自治公共團體ノ定義ヲ與フルトキハ「」自治公共團體トハ統治權ノ積極消極ノ監督ヲ受ケ團體ノ生存目的ヲ定メラレタル團體ノ一部ヲ處理スルノ義務ヲ負フ所ノ自治公法人ナリト云フ可キ

## 第二節 自治公共團體ノ種類

第一 自治公共團體ヲ其處理スル事務ノ消極的ニ制限セララルト積極的ニ定メラルルトニ依リ即チ其事務ノ一般ナルト特別ナルトニ依リ之ヲ分ツトキハ普通公共團體及ヒ特別公共團體ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ(獨逸民法第一〇七條)普通公共團體トハ府縣郡市區町村等ノ如キ其區域内ノ公共事務ニシテ他ノ機關ノ權限ニ屬セザル一切ノ事務ヲ處理スルモノナリ特別公共團體トハ特別ノ

利益ヲ増進ス目的ハ特別無効ノ爲事務ヲ執行スル學務組合等利組合又ハ  
救済組合等如キモノハ自治ノ範圍ヲ外シ其權限ハ範圍ニ付キ雖モ自治ノ範圍  
外共團體ヲ行爲能力ハ廣ク之ヲ解釋スルハ特別公共團體ノ行爲能力ニ付テハ  
疑ハシキモノ其範圍外ト解スヘキナリ

第三 某設立委任章ナルト否トニ依リ公共團體ヲ分テキヤ任意公共團體  
制公共團體是ナリ  
任意公共團體トハ之ヲ設立スルハ至ク設立者ノ自由ニ存スルモノニシテ統治  
者ニ對シ設立スヘキ義務ヲ有セザルモノナリ然レトモ任意ノ團體モ一旦之ヲ  
設立セタレ以上ハ國家ノ機關ニ對シテ國家事務ノ一部ヲ負擔シ之ヲ行フ  
義務ヲ有スルモノナリ由リ任意ニ之ヲ解散スルコトヲ得ス例ヘハ普通水利  
組合又ハ商業會議所等ノ如シ強制公共團體トハ統治者カ法令ヲ以テ其設立  
強制スル所ノモノニシテ統治者ノ公益上必要ト認ムルト其關係者之陳述如  
何ニ拘ハラズ設立スルモノナリ府縣郡市町村水害豫防組合等其例ナリ

第三 公共團體ノ區域ノ有無ニ依リ領土公共團體ト組合公共團體トニ區別ス

ルコトヲ得ルモノハ全體ニ亘ルモノナリ但シ其區域ハ自治ノ範圍ニ在リ  
領土公共團體トハ又地方團體トモ稱シ其區域内ニ在ル者ハ必屬團體員タラナ  
ルヘカラサルモノニシテ例ヘハ市町村ノ如キモノナリ組合公共團體トハ或一  
定ノ資格要件ヲ具備スル者ニ限リ團體員タルモノニシテ例ヘハ商業會議  
所普通水利組合水害豫防組合等是ナリ而シテ領土ヲ要素トスル點ニ於テハ國  
家ト地方團體ト等シト雖モ此二者同シカラサルハ勿論ノ事ニシテ其區別ニ  
關シテハ學說區區ニ分レタリ今參考ヲ爲テ左ニ其著シキモノヲ舉クレハ  
第一 說ハ主權ノ有無ヲ以テ兩者又區別シ標準爲メナリ「ザン」及「グ  
オル」兩氏ハ此說ノ主張者ニシテ共ニ主權ノ有無ヲ以テ國家ト地方團體ト  
ヲ區別セシトスルモノナリ然レトモ主權ハ國家ノ要素ニ非サルヲ以テ此說ハ  
採用シ難シ  
第二 說ハ「グロイ」氏ヲ嚮テ所ニシテ國家ハ領土主權ヲ有シ領土ヲ自由ニ處  
分シ得ルモ地方團體ハ此權ヲ有セスト然レトモ市町村モ組合ヲ造リ任意ニ其  
區域ヲ以テ他ノ團體ノ區域ノ一部ト爲スコトヲ得ルカ故ニ此點ハ未タ以テ國

家ト地方團體トヲ區別スルコトヲ得サルナリ  
第三說ハ國際法上ノ人格タルヲ得ルト否トニ依リ區別スル說ナリ之ニ關シ「  
トイバー」氏曰ク地方團體ハ國際法上ノ人格ナキニ由リ國家ト異ナルモノナリ  
ト然レトモ國家タルヤ否ヤハ國際法ニ依リ定マルモノニ非スシテ國家タルカ  
故ニ國際法上ノ人格ヲ有シ得ルモノナリ故ニ此說ニ本末ヲ顛倒シタルモノナ  
リト謂フヘシ  
第四說ハ「ローヤン」氏ノ說ニシテ氏ハ目的ニ區別ノ標準ヲ求メ地方團體ノ目的  
ハ一地方ニ於ケル地方の共同生活ノ需用ヲ達スルニ在レトモ國家ノ目的ハ之  
ニ反シ國民の利益即チ人民一般ノ共同生活ノ爲メニ固有ナル利益ヲ達スルニ  
在リト然レトモ府縣州ニシテ國家ヨリ大ナルモノアルコトヲ考フルトキハ此  
說モ採用スルコトヲ得ストナレハ國民の利益ト地方の利益トヲ大小ニ依リ  
テ區別スルコト難ケレハナリ  
第五說ハ「ブリー」氏ノ唱フル所ニシテ氏ハ曰ク國家ノ目的ハ無制限ナルモノニ  
テ此目的ヲ達スル爲メニハ全般ニ亘ルノ作用ヲ爲シ如何ナル事項ヲ自己ノ事

務ト爲スモ其任意ナリ地方團體之ニ反シ其權限如何ニ廣大ナルモ其目的の地  
方の利益ニ限ラレバ故ニ其目的の制限のノモノナリト然レトモ聯邦ヲ組織ス  
ル所ノ國家ニ於テハ其管轄事項ニ制限ヲ有スルニ由リ此說モ採用スルコト難シ  
第六說ハ「グーマイヤー」氏ノ主唱ニ係リ國家ハ他ノ制限ヲ受タルコトナク獨立  
ニ自己ノ定メタル法規ニ依リ政治上ノ目的ヲ達シ又獨立シテ其組織ヲ定ムル  
ノ權限ヲ有スルコトヲ得ルモ地方團體ハ此等獨立の權限ヲ有セスト然レトモ  
地方團體モ自主權ヲ有シ或程度ニ於テ其機關ノ組織ヲ自ラ定メ又事務ヲ獨立  
ニ處理スルノ能力ヲ有スルモノナリト然ルニ國家中ニテモ聯邦ヲ組織スルモ  
「マイヤー」氏ノ唱フル如キ區別ノ標準ヲ以テ此兩者ヲ區別スルコトヲ得サルモ  
「マイヤー」氏ノ唱フル如キ區別ノ標準ヲ以テ此兩者ヲ區別スルコトヲ得サルモ  
第七說ハ「エリチ」氏ノ說ニテ氏ハ監督權ヲ國家及ヒ地方團體ノ區別ノ標準ト  
爲シテ曰ク國家ハ一定ノ範圍ニ於テヤ其作用ヲ付キ他ノ權力者ハ監督ヲ受メ  
ルコトナク法規ヲ發スルコトヲ得ルモ地方團體ハ國家ノ監督ヲ受メ又其事務

ヲ處理スルモノナリト然レトモ聯邦國以テ各邦其權限ノ範圍ヲ  
越エテ連邦國ノ法律ヲ犯スモノトナキヤ其權限ヲ越スモノナリ此點ヲ以テ國  
家ト地方團體トヲ區別スルモノト雖シ然レモ國家及地方團體ノ區別ハ學理  
第八說ハラバソド氏ノ唱フル所ニシテ固有ノ統治權ヲ有スルヤ否ヤヲ以テ國  
家ト地方團體トヲ區別セントスルモノナリ氏曰ク自由ニ人ノ服從ヲ強制スル  
ノ權ハ國家ノミ之ヲ有シ市町村或ハ其他地方團體カ時トシテ警察及ヒ租稅ニ  
關スル命令ヲ發シ其住民ノ服從ヲ強制スルノ權ヲ有スルモ此權ハ此等ノ團體  
固有ノ權ニ非スシテ總テ國家ヨリ得テ之ヲ使用スルモノナリ即チ市町村其他  
ノ地方團體ハ或政務ノ範圍ニ於テ行政シ立法シ又命令ヲ以テ其區域内ノ人民  
ヲ強制シ得ルモ總テ國家ノ委任ヲ受ケテ之ヲ爲スモノナリト此點ハ國家ヲ以  
テ統治權ノ主體ト爲スモノナルカ故ニ此說ヲ全部ヲ採用スルモノト雖シ  
區別ノ標準トシテハ此說ノ中ニ幾分ノ異理ヲ包含スルニ由リ予ハ此說ヲ採用  
シ幾分之ヲ變更シテ左ノ如ク言ハント欲スルモノナリ即チ市町村等ノ地方團  
國家トハ固有ノ統治權ニ依リテ組織セラレタル團體ニシテ市町村等ノ地方團

體ハ國家統治權ヲ流シテ其權力ヲ以テ存在スル團體ナリ  
第三節 普通公共團體 在學國其組織及行政ハ其  
第三節 普通公共團體 在學國其組織及行政ハ其

第一款 概論

我國ノ普通公共團體ハ領土公共團體即チ地方團體ニシテ内地ニ於テハ市町村  
郡府縣ノ團體ヨリ成リ而シテ此等ノ團體ハ三級ノ階級ヲ爲シ町村ノ上ニ郡ア  
郡府縣ト相並ビテ其上ニ府縣ヲ有スルモノニ最下級ノ地方團體ハ市及  
町村ナリ今此三階級ノ關係ヲ考フルニ最小ノモノ即チ市町村ノ負擔ニ堪フル  
モノハ之ヲ市町村ノ事務ト爲シ町村ノ經濟ニ堪ヘテ府縣ノ事務ト爲シ  
市郡ノ負擔ニ堪ヘテ府縣ノ事務ト爲スヲ以テ大體ノ方針ト爲セリ然  
レトモ或程度ニ於テ府縣上級團體ヨリ下級ノ團體ニ經濟補助シ以テ其事業  
ヲ行ハシムルモノトナシテ非サルナリ即チ自治公共團體ニシテ市町村等

第五款 市町村ノ性質



第二項 我國市町村ニ關スル制度ノ歴史

一、

14

審ヲ謂ヒ村トハ人家散在シテ農漁等ニ從事スル人民ノ部落ヲ謂フナリ  
村ヲ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ關係アル市町村會及郡縣議會  
意見ヲ聽キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ待ツヘキモノナリ(明治二  
十三年八月二十九日法律第七十七號)

#### 第四項 市町村ノ廢置及名稱變更

- (一) 法律ニ依ル場合 市ヲ廢シテ町村ト爲スコトニ關シテハ市町村制中別段  
ノ規定ナシト雖モ市制第二百六條ニ依テ決定セラレタル市制施行ノ區域ヲ變  
更スルモノナルニ由リ法律ヲ以テ決定メタルハカ多クモ地方官制ノナリ  
(二) 內務大臣ノ權限ニ屬スル場合 町村ヲ市ト爲スコトハ市制第二百六條  
ニ於テ之ヲ規定シ其方法ハ町村ヲ市ト爲サント欲スルトキハ府縣知事ノ具申  
ニ依リ內務大臣之ヲ指定スルモノトセラレタリ  
(三) 府縣參事會ニ於テ行ハル場合 此場合ハ固ヨリ府縣參事會ノ專權ヲ以テ之  
ヲ爲スコトヲ得ス市町村會及郡縣參事會ノ意見ヲ聽キ內務大臣ノ許可ヲ要ス

ルモノナリ而シテ此手續ニ依ル場合左ノ如シ(町村制第四條參照)

- (イ) 市ニ町村ヲ合併スルコト  
(ロ) 市ヲ分割シテ數町村ト爲スコト  
(ハ) 數町村ヲ合併シテ一町村ト爲スコト  
(ニ) 一町村ノ割キテ數町村ト爲スコト  
(ホ) 數町村ヲ其一部ヲ分割シテ一町村ト爲スコト  
(ヘ) 一町村ヲ廢シテ數町村ノ區域ニ編入スルコト  
此等市町村ノ廢置分合ノ場合ニ內務大臣ノ許可ヲ要スル理由ノハ市町村會  
自治團體タルト共ニ國ノ行政區畫タルガ爲メナリ市町村會ノ意見ヲ敬ミ正般  
地方團體ノ機關ヲシテ之ヲ議決セシムル所以ハ自治團體ハ素ト社會自然ノ有  
様ヨリ成レル所ノ團體ニ其基礎ヲ置キタルモノナルニ由リ行政上ノ便宜ノ爲  
メ法律ヲ以テ自由ニ之ヲ區畫セシメタルノ趣旨ニ基キモノナリ又此等ノ處分  
ニ依リ財產處分ヲ要スルトキハ同一ノ機關ニ於テ併セテ之ヲ議決スヘキモノ  
ナリ

市町村名稱ノ變更ハ市町村ノ廢置分合ト何等ノ關係ナキモ名稱ノ如キハ歴史沿革ニ基キモナラニ由リ右ノ(三)ニ述ベタル者ト同様ニ手續を経ルコトナセリ(明治二十三年法律第七十七號參照)

第五項 市町村ノ要素

市町村ハ領土團體ナリニ由リ一定ノ地域ト人民トヲ基礎トス而シテ市町村力ハ公共團體ヲ維持スルカ爲メニハ向キ其他ノ權力ヲ必要トス此權力ヲ自治權ト謂フ

第一 自治權

自治權ノ主體ハ市町村カシテモ其權力ハ市町村固有ノモノニ非ス市町村カ統治機關トシテ行動シ統治事務ハ一部ヲ自己ノ事務トシテ處理スルカ爲メ統治權ヨリ之ヲ得タルモノナリ即チ自治權ノ發生ハ統治權ノ委任ニ出ツルモノト謂フヘシ

第二 區域

市町村ハ區域ハ市町村團體ノ權力即チ自治權及範圍ヲ稱スルモノナリ市町村ハ此區域ヲ基礎トシ其範圍内ニ住民ヲ對シ自治權ヲ行使スル者ナリ故ニ此區域ハ公法上ノ性質ハ統治權客體ト一カル領土ト相似ナルニ由リ茲ニ其說明ニ省ケ區域ト國家領土トノ關係ヲ付テ然レ種ノ制度ヲ一ハ國家領土内ニ何レハ市町村ニ屬セタルモノハ在ルベシ然レ種ノ制度ヲ一ハ國家領土ニ屬セ何レハ市町村ニ屬セタルモノハ在ルベシト爲スモノト是ナリ歐洲ニ於テ往昔地方團體ハ區域ニ關スル思想明カナリ殊ニ市町村ニ於テ公法上ノ區域ハ觀念ト市町村若クハ市町村住民ノ所有地トノ思想混同セシメ以テ無人ノ地或ハ未開墾ノ地ハ往往何レハ市町村ニ屬セタルモノト爲セリ然レトモ今日多クノ國ニ於テハ原則上第二ノ制度ヲ採用シ唯獨逸地太利ノ諸國ニ於テハ(三)ニ述ベタル其他例外トシテ無人ノ土地又ハ皇居離宮ノ敷地等ハ市町村ノ區域外ニモ在リ又ト爲セリ蓋シ舊時代ノ思想ハ遺物大體ニシテ國家ノ領土ニシテ市町村ニ屬セタルモノナリト云フ第二ノ制度ハ完全ニ行ハルベシ然レ獨逸地太利ノ諸國ニ於テハ其事務ハ國家ノ事務カ先故ニ統治者ハ其事務ヲ爲スル當

其領土ノ何レカ地方團體ノ區域ニ屬セシメテ其自治權ヲ保障スルニ基キ  
然ルモノナリ我國ニテモ此第二種制度ニ依リテハ郡區町村編制法發布以來  
確定シタルモノニテ我國ノ領土ノ其名稱ノ如何ニ拘テラレハ何レカノ區町村即  
チ今日之市町村ニ屬セサルベカラズナルモノト爲スルモノ即チ市町村ノ區域ハ  
自治團體ノ區畫タルト同時ニ亦國ノ行政區畫タルト何レカ市町村長ハ自治  
機關タルト同時ニ亦國ノ機關タルベキナリ然レトモ外國ニテハ必スシモ此兩者  
兼備スルモノト謂フヲ得ス英國貧民救助區Poor Law Unionsノ如キハ自治體ノ區域  
カモ國ノ行政區畫ニ非サルカモ自治團體ヲ設ケタル趣旨ベキハ社會自然ノ  
狀態ニ基キタル結合ヲ保護スルニ在リテ以テ已ムヲ得サル場合ノ外妄ニ從來  
ノ區域ヲ變更セサルヲ決メ精神トス是レ市町村制第三條ニ市町村ハ從來ノ區域  
ヲ存シテ之ヲ變更モスト規定シタル所以ナリ然レトモ其區域變更ノ已ムヲ  
得サル場合亦ナキニ非サルニ由リ其場合ニハ之ヲ許セリ元來市町村區域ノ變  
更ハ領土ノ變更ト異ナリ國權活動ノ範圍ヲ影響ス及ボスコトガキニ由リ法律  
發布等ノ煩雜ナ州手續ニ依リテ市町村會及相關係地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會

之ヲ議決シ其數郡ニ涉リ又ハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決スル  
コトト爲セリ此變更ノ處分ニ依リ財產處分ヲ要スルトキハ又同一ノ機關ニ於  
テ併セテ之ヲ議決スルモノナリ市町村ノ廢置分合ト其區域變更ト異ナルノ點  
ハ團體ノ存廢ニ關係アルト否ト即チ市町村ノ數ニ増減アルト否トニ在ルモノ  
ナリ町村制第四條末項參照又區域境界ニ關スル爭ハ市ノ境界ニ關シテ府縣參  
事會之ヲ裁決シ町村ノ境界ニ關シテハ郡參事會數郡ニ涉ル場合ノミハ府縣參  
事會之ヲ裁決ス而シテ其裁決ニ不服アルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
ルモノトセリ蓋シ市町村ノ區域ハ單ニ行政區畫ナクノミナス自存ノ目的ヲ  
有スル團體ノ基礎ナルカ故ニ其區域ヲ侵スコトハ團體ノ自治權ヲ侵スコトト  
爲リ團體ハ權利トシテ防禦スルヲ得ナルヘカラス是レ行政訴訟トシテ區域ニ  
關スル事ヲ提起スルコトヲ許セシ所以ナリ

### 第三 住民

市町村團體ヲ組織スル者ハ男女老幼内外人ヲ問ハス之ヲ住民ト謂フ而シテ住民トハ潜在ノ事實ヨリ來ルモノナレトモ單純ナル潜在ニテハ未タ住民タルコ

居住得若シ繼續的ニ住居スルノ意思アリテ一定ノ場所ニ住居スル  
ニシテ居住民ト爲ルハ其ノ我々市町村調理由書ニ「市町村住民籍即チ族籍」  
納規ハ別法令ヲ以テ之ヲ制定センコトヲ期ス故ニ茲ニ之ヲ詳記セスト雖モ  
妻スルニ本制ヲ行ハルル日ヨリ人民其町村トノ關係即チ族籍ニ付テハ從來ノ  
本籍寄留ノ例ヲ一變スル所ナリトアレトモ今日尙ホ之ニ關スル法令ガ又  
本籍寄留ノ事實ニ依ラサルモノナラニ由リ住居ト滞在トヲ區別スルノ標準甚  
タ困難ナリ實際ノ取扱トシテ行政官廳ハ永留ノ實跡アルヲ以テ住居ト爲シ如  
キモ實際滞在ノ久シキヤ否キハ區別ノ標準ト爲ラズ例ハ學生ノ如シ又在留  
ノ市町村ニ土地家屋ヲ所有シ或ハ在留ノ市町村ニ一定ノ店ヲ有シテ開業スル  
如キモ必ズシモ住民タルノ標準ト爲ラズ行政裁判所ハ宅地ト家屋トヲ所有シ  
妻子ノ居住子孫ノ通學、徵稅命令書及ヒ徵稅令書ノ送達新聞ノ送付、受領書ニ某  
町村番地某ト記シタルコト等ノ事實ヲ以テ住居スルモノト認ムヘシト判決ス  
ル要スルニ住所タルニ必要ナル住居トハ住居ノ意思及ヒ事實ニ依リテ判定ス  
ル事實問題ナリ又民法ノ住所ハ生活ノ本據トモアレタルニ由リ一人ハ住所

ヲ限リテ有シ得ルモ市町村制ニハ數市町村ニ住居ヲ構ヘ云云ノ規定アリテ二  
箇以上ノ住所ヲ有スルヲ認ムルニ由リ一人ニテ二箇以上ノ住居ヲ有スルヲ得  
隨テ一人ニシテ二箇以上ノ市町村ノ住民タルコトヲ得ルモノナリ又  
住民タル資格ニ伴フ權利ハ市町村公共ノ營造物ヲ使用スルコト並ニ市町村ノ  
財産ニシテ直接ニ住民ノ共用ニ供スルモノヲ使用シ得ルコトニテ住民タルノ  
義務ハ主トシテ市町村ノ負擔ヲ分任スルニ在ルナリ

住民中特別ノ權利義務ヲ有スル者ヲ公民ト謂フ而シテ公民ナルモノハ古ハ市  
町村ヲ組織スル要素即チ市町村團體員ニシテ此時代ニ於テハ團體員ハ公民ノ  
ミニシテ其以外ニ團體員トシテ住民ナルモノハ認メテラシモノナリ而シ  
テ市町村ニ住居スルノ權ヲ有スル者ハ公民ノミニシテ團體所有ノ財産及ヒ團  
體所有ノ營造物等ヲ使用シ其他市町村ノ行政ニ參與スルノ權ヲミナラス土地  
所有ノ權工業ヲ營ムノ權救助ヲ受クルノ權婚姻ヲ爲スノ權モ總テ公民ノ專有  
セシ所ナリシモ其後公民以外ノ者モ亦市町村ニ住居シ土地ヲ有シ工業ヲ營ミ  
婚姻ヲ爲スコトヲ得ルノ時ニ至リ公民ノ意義モ一方ニ於テ漸次變シ遂ニ市町



村團體員タルモノハ公民ノミニ非シテ住民ニモ之ヲ認ムルノ制度ヲ生スルニ至レリ是レ公民市町村ヨリ住民市町村ニ移ルノ大要ナリトス

公民ノ資格ヲ得ルニ二種ノ異ナリタル制度アリ

(一) 市町村公民ノ子孫ニシテ一定ノ資格アル者又ハ市町村ニ於テ特別ニ市町村公民タルノ權ヲ付與セラレタル者ヲ以テ公民ト爲スノ制度ナリ(獨逸、パリ、英國、ライン州ニ於テハ市町村ノ行政機關ハ公民權ヲ與ヘントスルモキハ市町村會ノ決議ヲ要スルモノトセリ)是レ前代ニ於テ市町村ニ居住シ營業シ土地ヲ所有シ婚姻ヲ爲シ救助ヲ受クルニハ公民權ヲ有スルヲ以テ要件ト爲シタルニ由リ門閥及ヒ特許ヲ以テ公民權ヲ與ヘタルニ基クモノナリ

(二) 市町村住民中一定ノ要件ヲ具備スル者ハ當然市町村公民ト爲ルノ制度ナリ故ニ此制度ヲ探ル處ニ於テハ公民權ハ血統ニ依ラス各人ノ希望ニ依リテ與ヘラルモノニ非ス又市町村長ヨリ其資格ヲ授與セララルモノニ非ス公民タルノ要件ヲ具フル住民ハ直チニ公民ト爲リ得ルモノナリ此制度ハ近世的ノモノナルヲ以テ第一種ノ制度ヲ採用スル國ニ於テモ幾分カ第二種ノ制度ヲ折衷

シ一定ノ資格ヲ有スル者ニハ必ス其公民權ヲ與ヘサルヘカラサルノ制度ヲ設クル所アリ

我國ニ於テハ公民權ノ資格ヲ與フルニ此第二種ノ制度ヲ採用シ市制町村制ニ依ルトキハ公民タル者ハ(イ)帝國人民タルコト(ロ)公權ヲ有スル者ナルコト(ハ)獨立ノ男子タルコト(ニ)二十五歳以上ナルコト(ホ)二年以上住民ト爲リ二年以來町村ノ費用ヲ負擔スルコト(ヘ)町村内ニ於テ地租又ハ直接國稅二圓以上ヲ納ムルコト(ト)公費ヲ以テ救助ヲ受ケス又ハ救助ヲ受ケタル者ハ其以後滿二年ヲ經過シタルコトノ要件ヲ具備スヘキモノナリ

公民タル者ハ特別ノ權利及ヒ義務ヲ有スルモノニシテ權利トハ市町村ノ自治行政ニ參與スルノ權ニシテ義務トハ市町村ノ名譽職ヲ擔任スルノ義務ナリ而シテ故ナク名譽職ニ就クコトヲ拒ムトキハ之ニ對シテ制裁アリ蓋シ此ノ如キ義務ヲ負ハシムルハ公民權ヲ人民ニ與ヘ公共ノ爲メ人民力之ヲ誠實ニ實行スルコトヲ期スルニ在ルモノナリ

公民權ノ消滅スル場合ハ其資格タル要件ヲ失ヒタルトキ及ヒ市町村ノ公職ニ

就キタルカ爲メ公民ト爲ラタル者ハ其職ヲ失ヒタルトキナリ良民權停止ノ場合ハ市町村制第八條第三項ニ規定セララルモノナリ

### 第六項 市町村ノ機關

第一 議決機關、市町村ノ議決機關ハ市町村議會ニシテ、市町村議會ハ市町村ノ公共團體ハ法人ニシテ自然人ニ非ス故ニ其意思ヲ構成スル機關ヲ具ヘタルヘカラナルハ勿論ニシテ市町村ニ於ケル意思機關ハ市町村議會ナリ而シテ市町村ノ意思ハ此等ノ機關ノ議決ニ依リテ定マルモノナリ唯市町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經其議決ニ依リテ町村總會即チ町村公民ノ總會ヲ以テ町村議會ニ代ナルコトヲ得今市町村議會ノ權限ヲ考フルニ市町村制理由書ニハ市町村議會ハ市町村ニ對シ代表ストアレトモ市町村議會ハ市町村ヲ外部ニ對シ代表シ得ルモノニ非ス即チ市町村議會ハ特別ノ明文以外ニ外部ニ對シ自ラ直接ニ交渉スルノ權ナキモノナリ又市町村議會ハ議決ヲ爲スモ特別ノ場合ノ外執行權ヲ有セス執行權ハ常ニ執行機關ニ屬スルモノナリ今市町村制ニ依リ市町村議會ノ權限ニ屬スル

モノヲ列舉スルハ左ノ如シ

- (イ) 市町村一切ノ事件ヲ議決スル市町村制第三十條及ヒ町村制第三十二條ハ其議決事項ヲ列記スト雖モ是レ其概目ニ止マリ悉ク列舉シタルモノニ非ス
- (ロ) 市町村一切ノ吏員ヲ選舉スルコト市ニ在リテハ市會議長及其代理者、市長助役名譽職參事會員市ノ收入役區長代理者臨時又ハ常設ノ委員市制第三二條第三七條、第五一條、第五八條、第六〇條、第六一條參照町村ニ在リテハ町村長助役收入役書記其他ノ附屬吏員區長及ヒ其代理者臨時又ハ常設ノ委員町村制第三四條第五三條第六二條乃至第六九條
- (ハ) 特ニ委任セラレタル事件ヲ議決スルコト若シ將來此ノ如キ特別ニ議決ノ委任ヲ爲ス場合ハ必ス法律又ハ勅令ニ依ルベキモノナリ市制第三〇條町村制第三二條

- (ニ) 市町村行政ヲ監督スルコト市會及ヒ町村議會ハ市並ニ町村ノ事務ニ關スル書類及ヒ計算書ヲ檢閲シ市町村長ノ報告ヲ請求シ以テ事務ノ管理、決議ノ執行並ニ收入支出等會計事務ノ成否ヲ監視ス市制第三三條町村制第三五條而シ

- ヲ監督ノ結果意見ヲ陳述スルコトヲ得ルモ市參事會町村長等ノ不信任ヲ決議シ委員ノ非ヲ奉ケテ之ヲ彈劾スルノ權ヲ有セズ
- (ホ) 市左ノ場合ニ意見ヲ述フルコト會員ニ與ヘシメテ市會ニ開ス
- (甲) 行政監督ノ結果トシテ監督官廳ニ對シ意見ヲ述フルコト
- (乙) 市町村ノ公益ニ關シ監督官廳ニ意見ヲ述フルコト
- (丙) 官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フルコト市制第三四條町村制第三六條
- (ヘ) 訴訟ニ對スル裁決ヲ爲スコト 市町村ノ行政ニ關シ行政上ノ紛議ヲ生シタルトキハ國家ノ直接機關トシテ訴訟ニ對スル第一審ノ裁決ヲ爲スコトアリ然レトモ町村會ノ設ナキ處ニ於テハ此權ハ町村長ニ屬スルモノナリ市制第三五條町村制第三七條第一項第二項
- (ト) 議會ノ内部ニ關シ左ノ權限ヲ有スルコト
- (甲) 會議ノ細則ヲ定ムルコト(市制第四八條町村制第五〇條)
- (乙) 議員ノ資格ヲ審查スルコト(市制第二九條町村制第三〇條)
- (丙) 處務規程ヲ定ムルコト 例ハ議長ノ選任市町村會ノ招集議事録ノ調

製等ノ如シ市制第三七條乃至第四七條町村制第三九條乃至第四九條市町村會ノ組織ハ陸海軍ノ現役者以外ノ一般ノ公民中ヨリ選舉セラレタル議員ヲ以テ組織セラレ而シテ其議員ハ市ニ於テハ二級選舉町村ニ於テハ三級選舉ニ依リテ選舉セラレタルモノナリ町村ハ二級選舉ト爲シタル町村會直ニ比シテ貧富ノ懸隔少シトスルニ因ルモノニシテ議員ノ定員ハ市制及モ町村制第十一條ニ於テ詳シク規定モラレタリ

今等級選舉ノ當否ヲ考メズ市町村制理由書ニ曰ク名譽職ニ任スルハ町村公民ノ輕カラズル義務ナレハ實惠アル者ニ非ズレハ之ニ任スルコト能ハス又其稅額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論ゼズモ其事ヲ自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權力ヲ有セシムルニ固ヨリ當然ノ理ナリ今等級選舉法ヲ以テ常例トスルハ即此要旨ニ外ナラス等級選舉ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ明ニ其良結果アルヲ徵スルニ足ル本制ハ被選舉權ノ資格又廣クシテ面シテ其流弊ナキヲ信スル所以ノモノ也即此選舉法ニ依リテ以テ細民ノ多數ニ例セラレタル弊ヲ防クニ足ルモノナリ即チ此理由ヲ約言スルハ

二九











兩者共ニ上下使屬ノ關係ニ立テ又共ニ其權限內ニ於テ無定量ノ事務ヲ執行  
スルコトヲ擔任スレハナリ是ニ於テ任命ノ手續ニ依リテ之ヲ區別スルハ外  
ナカリ即チ官吏ノ任命ノ形式ヲ以テ其地位ニ就キ官吏ノ其團體ノ選舉ニ依  
テ其地位ヲ得或ハ市長ノ如ク勅令ニ依リテ其地位確立スル者アリトモ之ヲ求  
武官任命權ノ作用ニ非ズシテ市町村團體ニ對シ監督權行使ノ結果ニ進ミ  
ルナリ其結果トシテ官吏ノ任命者ニ對シ直接ノ從屬關係ニ立ツモノ之ニ反シテ  
市長ハ君主ニ直接隷屬スルモノニ非サルナリ又雇ト吏員ト異ナル點ハ展轉  
約キ基キト否ト在リ吏員ト異ナル點ハ市町村一般ノ義務ニ依ルト否ト在リ  
在リ又夫役ト吏員ト異ナル點ハ市町村一般ノ義務ニ依ルト否ト在リモノナ  
ルモ報酬ハ之ニ反シ手當ト等シク勤勞ノ多少ニ依リテ定ムルモノナリ又  
第五 有給職ト名譽職ト名譽職ハ實領其職ハ團體員ニ附シテ其團體員ニ對シ  
此區別ハ給料ノ有無ニ依ルモノナリ而シテ名譽職ノ者モ報酬ヲ得ルモノナ  
リ職モ給料ト報酬トハ其性質ヲ異ニシ給料ハ官吏ノ俸給ト同一ノ性質ヲ有ス  
ルモ報酬ハ之ニ反シ手當ト等シク勤勞ノ多少ニ依リテ定ムルモノナリ又

名譽職ノ職員ニ就職ノ義務ヲ有スルヲ以テ通例ト爲ス又故ニ選任セザルハ  
トモ之ヲ承諾スルト否ト自由ナク即チ選舉及任命ノ選任吏員ニ依リテ  
同意ヲ待テスシテ直チニ效力ヲ生スルモノ之ニ反シテ有給職ニ選任  
ラレタル者ハ就職ノ義務ナキニ由リ其同意ヲ待テテ始メテ效力ヲ生スルモノ  
ナリ又選任ナルハ資格ニ付テモ有給職ト名譽職トノ區別アリ即チ名譽職  
ハ市町村公民中選舉權ヲ有スル者ニ非ズレハ之ヲ就クコトヲ得ズモ有給職  
ノ地位ニハ公民權ヲ有セサルモノ之ニ選任セラルコトヲ得ルナリ又  
兩者ノ間ニハ既ニ述ヘタル如ク就職ノ義務ノ有無ニ關スル區別アルヲ以テ有  
給職ニ在ル者ハ何時ニテモ其職ヲ辭スルコトヲ得ルモ名譽職ニ在ル者ハ特別  
ニ事由ヲ與ヘザルハ外其職ヲ辭スルモノハ得ズ又各團體員ニ對シ公民權ヲ停止  
セラル又公民タルハ資格ヲ失フコトハ當然其職ヲ失フモノ有給者ハ此ノ如ク  
失職ヲ生スル場合ハ唯就職ノ爲メ公民權ヲ得ルモノハ當然其職ヲ失フモノ  
僅ハ公民ハ其職ヲ失フモノハ其其他定限權限ヲ得ル者ニ關シ區別アリ  
又其有給吏員ハ給料ヲ得ルハ外條例ノ規定ニ依リテ退職金受取權ヲ得ルモノ

名譽職員ヲ指スルモノナリ又遊民ノ職務ニ關シ學識兩者之區別ヲ辨テ名  
譽職員ハ本來他ノ業務ニ從事セ傍事ヲ司村務事務ヲ執斷至關ノ事ナル  
カ故ニ他ノ業務ニ從事シ得ルハ勿論然レモ有給吏員本市町村長助役ノ他少有  
給ノ職務ヲ兼テ又ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員若クハ事務員タル者不得  
ス又監督官職ノ許可ヲ得ザレバ營業其他報關ナル業務ニ從事ス最宜計ヲ得非  
ルモノナリ

第七項 市町村ノ事務

市町村ノ事務ハ或ハ之ヲ分チテ必要事務ヲ隨意事務ト二ト爲ス者アリ然レモ  
此區別ハ常ヲ得ヌ何トナレバ市町村ノ國家ニ對シテ事務ヲ執行セルノ義務則  
有シ市町村ノ權限ニ屬セル事件ノシテ公益上必要ナルモノハ市町村之ヲ執行  
スルノ義務ヲ有シ又公益上必要ナシトスレバ市町村ノ費用ヲ徵收シテ之ヲ執  
行セルコトヲ得ス故ニ此點ハ糾纏バ甚テ必要事務トモ不<sub>レ</sub>必要ナラズ然レ  
トモ若シ隨意事務トハ市町村ニ於テ必要若し則不必要ヲ辨識難ク自由山ナル

第七項 市町村ノ事務

ノ事務ナリト之ヲ解スルナラハ必要事務及ヒ隨宜事務ノ區別ヲ爲シ得サルニ非タレバ、或ハ委任事務ハ獨立事務トノ區別ヲ爲ス者アリ、獨立事務ハ又之ヲ固有事務トモテ市町村ノ障礙ノ事務或ハ國家ノ關係ヲ被ル市町村ヲ固有事務トモスルノ事務ナリト解ス者有レドモ、非ズルニ據リ、若シ此義ヲ以テ市町村ノ事務ヲ委任事務ト獨立事務トニ分シ得キハ、此區別甚モ當リ得、何トモ、市町村ノ事務ハ總ハ國家ノ事務ナレバ、然レモ、若シ固有事務ハ國家ノ直轄ノ事務トモシテ、當然其事務中ニ包含スヘシト認メラレタル概括的委任ノ事務ニテハ委任事務トハ特別ノ事項ヲ特ニ委任セラレタル事務ナリト解スルナラハ、委任事務ト固有事務トノ區別或ハ委任事務ト獨立事務トノ區別ハ存シ得ザレモ、ニ非サルナリ

今市町村ニ於テ處置セラル事務ハ舊カマヤ市町村對シテ漸クハ松  
共事務及ニ從廉ノ法律命令ニ依リ又將來ノ法律ニ依リ市町村ニ屬セシメラレ  
タルモノヲ一面々々其内容ヲ見レハ市町村ノ爲シ得ルコトハ狭キ範圍ニ於ケ  
ル行政事務殊ニ内部行政ノ範圍ヲ隔テ離シモテ立派ニ強制監督ヲ行フ事自注

體に形は、表裏之内遊ばず、龍圖法術を細シテ執職し、沙汰邊々布町村相繼  
ヒテ行フヲ得勝ルニ技内尋ヘ見ヘ市田林ノ從ハ借ハロイハ整テ謀國ノ策マ  
路納遊府政の如何好利奪勢力抽町封津禁ヲ特舉元興キ市廳議決最ホミレ  
今正門衝在筆勢高之カ爲経管遺物ノ役位阻供他書裁少準備伊處云云ナク  
五二節教育事務ニ其ヤハナリ

[illegible]

雜  
報

○偽證罪ノ被害者ハ偽證罪ノ被害者ト爲シタル場合ノ如キニ其陷害セラル者ヲハ陷害セラルトシ  
又意思ヲ以テ偽證ヲ爲シタル場合ノ如キニ其陷害セラル者ヲハ陷害セラルトシ  
トシタル者ヲ以テ被害者ナリト爲スヘキカ又ハ國家ニ裁判權其權ヲ以テ決シ  
タ又裁判ニ陷ルコトアルヘキ裁判官其人ナリカ更ニ示スルニ大審院ノ判決  
必スシテ此等ノ問題ヲ決シタルモノニ非サルモノト雖モ判事力偽證罪ノ被害  
者ナリト否々付キ之ヲ否定シタ曰ク偽證ニ依テ害ヲ被ル者ハ國家ノ裁判  
權其者ニシテ判事又ハ裁判所書記ニアルニ故ニ虛偽ノ證言ヲ聽キタル判事及  
裁判所書記ハ偽證ノ被害者トシテ偽證事件ニ付テ其職務ヲ執行スル際除斥  
ナルヘキ理アリト

（大審院明治三十八年三月十九日第一五號刑事部官廳事件）  
○公證文書ノ偽造國府詐欺取財罪ト特効ノ官公私文書ノ偽造違造シテ詐  
欺取財罪ヲ犯シタル者ノ實質上ノ罪非ズモ刑法第三百九十九條第二項ヲ適用  
スルニ依テ其罪狀ヲトス而シテ官公文書及第二百四條所載ノ文書ノ偽造

進行使ノ罪ハ重罪ニシテ詐欺取財ノ罪ハ輕罪ナリ隨テ時効ノ期間ヲ異ニス然レバ今詐欺取財罪カ公訴ノ時効ニ據リ官公文書ノ偽造變造行使罪カ未ダ時効ニ據ラサルトキハ所謂實質上ノ一罪ヲ分離シテ單ニ官公文書ノ偽造變造行使罪ヲ以テ問擬スヘキカ大審院ハ曰ク詐欺取財ヲ爲スニ因テ官公文書ヲ偽造行使シタル場合ニ於テ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シ實質上ノ一罪トシテ處斷スト雖モ若シ其實質上一罪ノ一部タル詐欺取財又ハ文書偽造ノ點カ無罪タルヘキ場合ニ於テハ之ヲ分離シテ唯其有罪ノ部分ノミヲ罰スヘキ場合ナリトス隨テ詐欺取財ト官私文書偽造ト併發シタル場合ニ於テハ若シ其私書偽造詐欺取財ノ點カ公訴ノ期滿免除ニ係ハル時ハ單ニ官文書偽造ノ點カニテ罰シ私文書偽造除詐欺取財ノ點ハ之ヲ分離セシムヘキモノニシテ官私文書偽造ト其實質上一罪ヲ構成スヘキ部分ナルカ故ニ期滿免除ノ效ナキモノト斷斷スルヲ得スト（大審院明治三十六年三月十四日第二四號判決）

○冒認罪ト文書偽造 刑法第三百九十三條ノ罪ヲ犯スノ目的ヲ以テ私文書ヲ偽造シタルトキハ何レノ條文ヲ適用スヘキカノ問題ニ對シ長崎控訴院ハ私

文書偽造行使罪ト冒認罪トノ數罪俱發ナリト認メタルカ大審院ハ之ニ反シテ第三百九十條第二項ヲ適用スヘキ實質上ノ一罪ナリト爲シ説明シテ曰ク刑法第三百九十三條ニ他人ノ動產不動產ヲ冒認シテ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ストアリテ之ヲ詐欺取財ノ異犯ト爲ナスシテ以テ論ストナシタルモノハ蓋シ冒認罪ハ詐欺取財ノ異犯ニアラサルモ其情異犯ト異ナラサルヲ以テ斯ク規定セラレタルモノト解セサルヲ得ス故ニ冒認罪ハ單純ノ詐欺取財罪ト其處斷ヲ異ニスルノ理由アルコトナシ而シテ本件偽造ニ係ル文書即チ賣渡證書等ハ元ト是レ冒認ノ用ニ供セシモノナルヘキモノ之ヲ冒認シタルノ要ハ金員ノ竊取ニ外ナラザレハ其文書ハ即チ詐欺取財ヲ爲スニ依テ偽造行使シタルモノト云ハサルヲ得ス既ニ然レハ本件ノ事實ニ對シテハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シ實質上ノ一罪トスヘキモノナルニ原則決爰ニ出テ本件私書偽造行使ノ所爲ハ冒認罪ト實質上ノ一罪ヲ爲スヘキモノニアラストシ數罪俱發例ニ照シ處斷シタルハ上告所論ノ如ク擬律錯誤ノ判決ハ尤ラ免カレサルモ

トスト（大審院明治三十五年二月二日第一四號私書偽造行使處所）  
（大審院明治三十五年二月二日第一四號私書偽造行使處所）



○控訴中取下ケタル私訴ノ提起　民事訴訟法ニ依レテ控訴ノ取下ハ上訴權喪失ノ效果ヲ生スルモノトシ多少ノ疑ナキニ非ズレドモ附帶控訴トシテノモ更ニ提起スルコトヲ得ヘシ民事訴訟法第三九九條第二項第四○五條第一項然ラハ私訴ニ付テハ如何刑事訴訟法ハ其第四條第一項ニ於テ私訴ハ云云公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得下規定シ第七條第一號ニ於テ拋棄ハ私訴權ノ消滅ヲ來スモノトセリ然ラハ控訴中私訴ヲ取下ケタルトキハ更ニ之ヲ提起スルモ妨ナキカ大審院ノ判決要旨ニ曰ク私訴ハ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレバ控訴中一旦之ヲ取下ケルモ更ニ提起スルコトヲ得ヘシテ刑事訴訟法中前訴訟費用未済ナルトキハ之カ提起ヲ爲スコトヲ得サルノ規定アルコトナシ而シテ同法第二百一條第三項ハ私訴費用ノ負擔ニ付キテノミ民事訴訟法ヲ準用シ本案ノ如キ私訴權ノ有無ニ關シテモ之ヲ準用スルノ法意ニアラスト

（大審院明治三十四年四月二十九號託金貨物事件明告）

明治三十二年一月二十九號第二刑事部事件明告

○西遊記續集 全一冊 目次 八五五二頁 發行

○先取特權ニ付テノ建築

○東京府立第一女子高等学校

CONSIGLIA IL TUMORE AL MAMMA

○威亞爾氏博士「英國之經濟」

[illegible]

□ □ □ □

◎我國子民之權利

ORGANIZATIONAL CULTURE AND COMMUNICATION

三十六年四月

佛法無畏

# 特別法講義錄

第二二號  
五月一日  
發行

○市町村制

法學士 松浦誠次郎

○戶籍法

法學士 島田龍吉

○人事訴訟手續法

法學士 板岡義正

○特許法

法學士 杉本貞治郎

○商標法(舊法)ニハ○府縣制(新法)ニハ○供

配法(舊法)ニハ○非商標手續法(新法)ニハ○供

不商標法(舊法)ニハ○商標法(新法)ニハ○供

○組織法(舊法)ニハ○著作權法(水野博士)ニハ○公

證人規則(舊法)ニハ○執事規則(仁井田博士)

ノ組織ニハ○每月一回發行○月謝金十五圓

發行所 和佛法律學校

明治三十六年四月廿九日發行

第二二號

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部

東京市及府縣事務部